

# データヘルス計画（第1期） 年次報告書

[平成28年度]

最終更新日：平成29年12月25日

アルバック健康保険組合

## STEP 1 - 1 基本情報

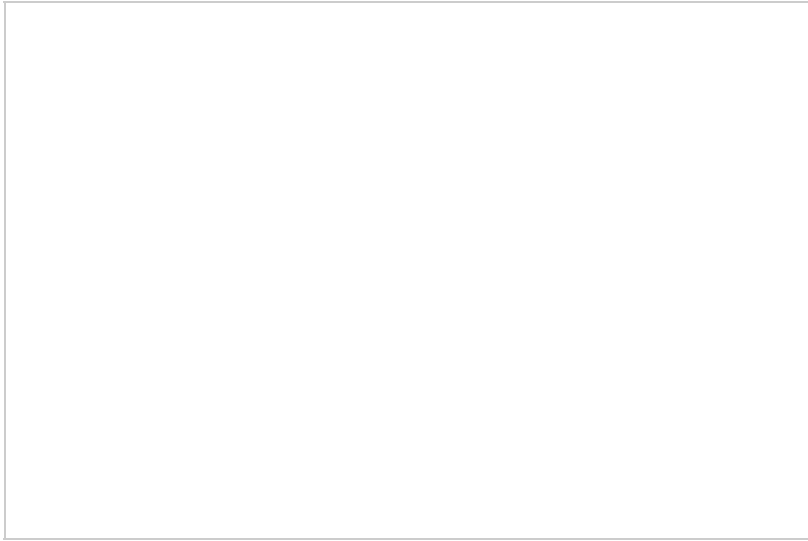
組合コード	46619		
組合名称	アルバック健康保険組合		
形態	単一		
業種	機械器具製造業		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
被保険者数 * 特例退職被保険者を除く	男性-% -名 (平均年齢-歳) * 女性-% (平均年齢-歳) *	男性87.2% 4,240名 (平均年齢42.8歳) * 女性12.8% (平均年齢41.3歳) *	男性-% -名 (平均年齢-歳) * 女性-% (平均年齢-歳) *
特例退職被保険者数	-名	0名	-名
加入者数	-名	9,700名	-名
適用事業所数	-カ所	21カ所	-カ所
対象となる拠点数	-カ所	97カ所	-カ所
保険料率 *調整を含む	-‰	85‰	-‰

		健康保険組合と事業主側の医療専門職					
		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)
健保組合	顧問医	-	-	0	0	-	-
	保健師等	-	-	1	0	-	-
事業主	産業医	-	-	1	16	-	-
	保健師等	-	-	4	0	-	-

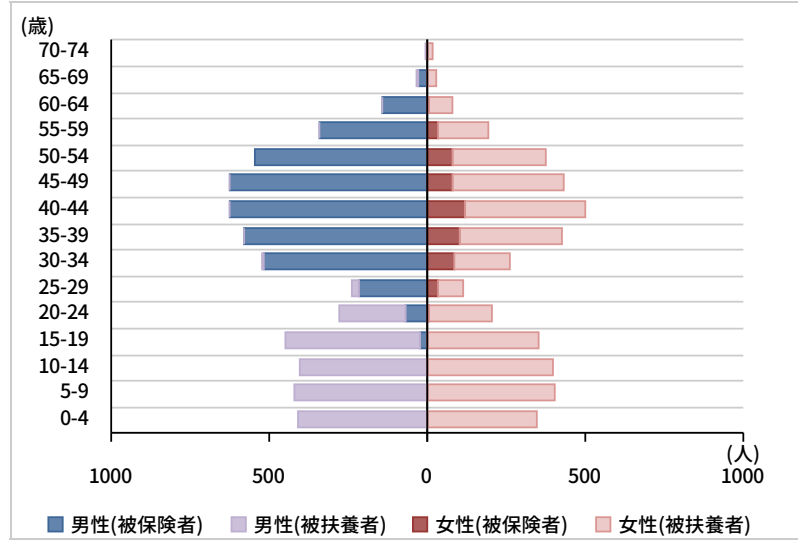
		平成27年度	平成28年度	平成29年度
特定健康診査実施率	全体	-%	76.2%	-%
	被保険者	-%	92.9%	-%
	被扶養者	-%	42.0%	-%
特定保健指導実施率	全体	-%	7.8%	-%
	被保険者	-%	8.2%	-%
	被扶養者	-%	0.0%	-%

		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)
保健事業費	特定健康診査事業費	-	-	11,566	2,728	-	-
	特定保健指導事業費	-	-	3,380	797	-	-
	保健指導宣伝費	-	-	19,396	4,575	-	-
	疾病予防費	-	-	66,230	15,620	-	-
	体育奨励費	-	-	3,000	708	-	-
	直営保養所費	-	-	0	0	-	-
	その他	-	-	4,200	991	-	-
	小計 …a	0	-	107,772	25,418	0	-
経常支出合計 (千円) …b	-	-	2,251,201	531	-	-	
a/b×100 (%)	-	-	4.79	-	-	-	

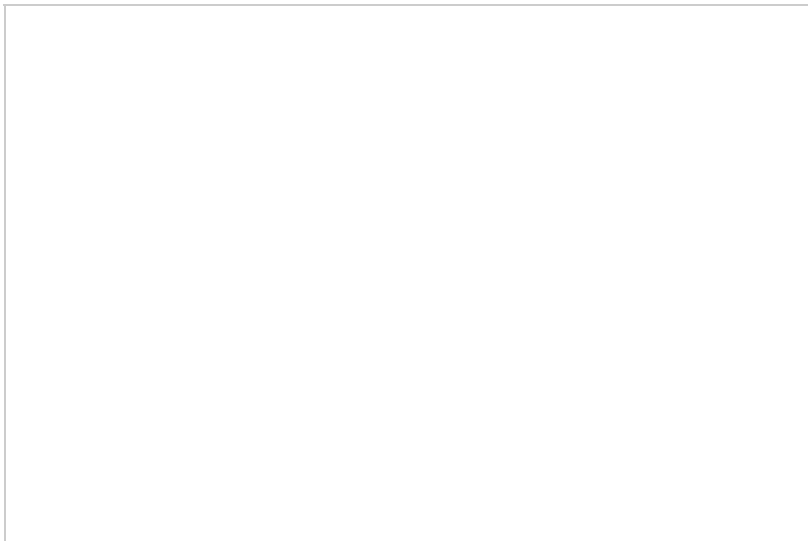
平成27年度



平成28年度



平成29年度



## 男性（被保険者）

平成27年度				平成28年度				平成29年度			
0～4	-人	5～9	-人	0～4	0人	5～9	0人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	-人	15～19	-人	10～14	0人	15～19	22人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	-人	25～29	-人	20～24	69人	25～29	215人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	-人	35～39	-人	30～34	515人	35～39	578人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	-人	45～49	-人	40～44	627人	45～49	624人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	-人	55～59	-人	50～54	547人	55～59	341人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	-人	65～69	-人	60～64	144人	65～69	26人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	-人			70～74	1人			70～74	-人		

## 女性（被保険者）

平成27年度				平成28年度				平成29年度			
0～4	-人	5～9	-人	0～4	0人	5～9	0人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	-人	15～19	-人	10～14	0人	15～19	2人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	-人	25～29	-人	20～24	8人	25～29	35人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	-人	35～39	-人	30～34	83人	35～39	104人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	-人	45～49	-人	40～44	118人	45～49	82人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	-人	55～59	-人	50～54	78人	55～59	32人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	-人	65～69	-人	60～64	7人	65～69	2人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	-人			70～74	0人			70～74	-人		

## 男性（被扶養者）

平成27年度				平成28年度				平成29年度			
0～4	-人	5～9	-人	0～4	409人	5～9	423人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	-人	15～19	-人	10～14	404人	15～19	426人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	-人	25～29	-人	20～24	212人	25～29	21人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	-人	35～39	-人	30～34	4人	35～39	2人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	-人	45～49	-人	40～44	1人	45～49	1人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	-人	55～59	-人	50～54	0人	55～59	1人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	-人	65～69	-人	60～64	1人	65～69	4人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	-人			70～74	3人			70～74	-人		

## 女性（被扶養者）

平成27年度				平成28年度				平成29年度			
0～4	-人	5～9	-人	0～4	346人	5～9	402人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	-人	15～19	-人	10～14	400人	15～19	355人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	-人	25～29	-人	20～24	201人	25～29	78人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	-人	35～39	-人	30～34	178人	35～39	322人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	-人	45～49	-人	40～44	379人	45～49	352人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	-人	55～59	-人	50～54	293人	55～59	158人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	-人	65～69	-人	60～64	75人	65～69	27人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	-人			70～74	16人			70～74	-人		

## 基本情報から見える特徴

事業所の拠点が全国にある。  
 加入者数は平成28年度の平均人数を記載。  
 年齢構成は、平成28年3月31日現在の人数を記載。  
 年齢構成のピークは、30歳代後半～40歳代後半にある。  
 被保険者は、男性が87.2%を占めている。  
 平成28年11月より健保組合に保健師を1名配属した。

## STEP 1 - 2 保健事業の実施状況

### 保健事業の整理から見える特徴

- ・被扶養者の特定健診受診率が低下傾向にある。
- ・特定保健指導の実施率が低い。
- ・人間ドック・PETの受診率が低く、受診者が固定化されている。
- ・電話相談の利用率が低い。
- ・機関誌を家に持ち帰らない社員がいる。

#### 健保組合の取組

- 1 特定健診（被保険者）
- 2 特定健診（被扶養者）
- 3 生活習慣病健診（35歳以上の被保険者）
- 4 特定保健指導
- 5 機関誌発行
- 6 ジェネリック利用促進の通知
- 7 医療費通知
- 8 健康保険パンフレットの配布
- 9 ホームページでの情報発信
- 10 受診勧奨通知（中・高リスク）
- 11 健康情報の提供（ポピュレーション・アプローチ）
- 12 ウォーキングイベント（ポピュレーション・アプローチ）
- 13 人間ドック
- 14 PET/CT（被保険者）
- 15 電話健康相談
- 16 インフルエンザ予防接種
- 17 救急医薬品の送付
- 18 体育奨励
- 19 保養所利用補助

#### 事業主の取組

- 1 定期健康診断
- 2 健康診断事後措置に伴う指導
- 3 ストレスチェック



## 健保組合の取組

No.	内容			
1	事業名	特定健診（被保険者）		
	予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	【目的】生活習慣病の早期発見と健康維持のため 【概要】事業主が行う定期健診と併せて実施。（事業所が主体で実施）
	事業分類	1		
	事業費(千円)	899 千円	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 対象者分類 全員 年齢 40～74
	振り返り	<b>実施状況・時期</b> 対象者 2,447名 受診者 2,299名 受診率 94%  <b>成功・推進要因</b> -  <b>課題及び阻害要因</b> 健診後、治療が必要な従業員がいた場合のフォロー体制が整っていない事業所がある。		
	評価	4. 80%以上		

No.	内容			
2	事業名	特定健診（被扶養者）		
	予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	【目的】生活習慣病の予防と医療費適正化のため 【概要】対象者に受診券を送付し、各自で健診機関に予約して受診。
	事業分類	1		
	事業費(千円)	3,423 千円	対象者	資格 被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 対象者分類 全員 年齢 40～74
	振り返り	<b>実施状況・時期</b> 対象者 1,236名 受診者 499名 受診率 40.4%  <b>成功・推進要因</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>受診券送付後、一定期間受診のなかった方に対して受診勧奨のハガキを送付。</li> <li>パート先等で健診を受診した場合、健診結果を送ってくれた人に対して粗品を贈呈。</li> <li>事業主にも広報資料を配布して協力の呼びかけ。</li> </ul> <b>課題及び阻害要因</b> 24年度は47.2%まで上昇した受診率が低下。低下の原因は現段階では特定できていない。特定健診受診の必要性を地道に訴えていくことが必要。		
	評価	1. 39%以下		

No.	内容		
3	事業名	生活習慣病健診（35歳以上の被保険者）	
	予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要
	事業分類	1	【目的】生活習慣病の予防と医療費適正化のため 【概要】35歳以上の被保険者に対し、特定健診質問票、HbA1c、尿酸値、便潜血、胃部XP（間接）、眼底検査（医師の指示があった場合）の補助を実施。また、一部項目の再検査費用を健保が負担。
	事業費(千円)	1,221 千円	
	振り返り	<p><b>実施状況・時期</b> 【生活習慣病健診】 対象者 3,330名 受診者 3,306名 受診率 99.2%</p> <p><b>成功・推進要因</b> 一般健康診断と一緒に受診できる。</p> <p><b>課題及び阻害要因</b> ・事業所によっては勤務体系等により胃部の受診が困難な場合がある。</p>	<p><b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>対象者分類</b> - <b>年齢</b> 35～74</p>
評価	4. 80%以上		

No.	内容		
4	事業名	特定保健指導	
	予算科目	特定保健指導事業	事業の目的 および概要
	事業分類	3	【目的】疾病予防及び健康改善のため 【概要】対象者を抽出後、事業所と連携を取りながら集団で保健指導を実施。
	事業費(千円)	185 千円	
	振り返り	<p><b>実施状況・時期</b> 【動機付け支援】 対象者 380名 実施者数 9名 実施率 2.4%</p> <p>【積極的支援】 対象者数 398名 実施者数 6名 実施率 1.5%</p> <p><b>成功・推進要因</b> -</p> <p><b>課題及び阻害要因</b> 26年度は特定保健指導を実施していない。 27年度は対象の事業所を絞って実施する。</p>	<p><b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>対象者分類</b> 基準該当者</p> <p><b>年齢</b> 40～74</p>



	評価	1. 39%以下		
No.	内容			
5	事業名	機関誌発行		
	予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】 情報発信、健康意識の向上 【概要】 機関誌の発行（内容：健保の運営、収支、保健事業の案内、健康情報の提供等）
	事業分類	4		
	事業費(千円)	1,964 千円	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 対象者分類 全員 年齢 18～74
	振り返り	<p><b>実施状況・時期</b> 機関誌発行 年3回 全社員に会社経由で発行</p> <p><b>成功・推進要因</b> タイムリーな情報提供により健保が実施する保健事業の周知や医療費適正化に役立てている。</p> <p><b>課題及び阻害要因</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自宅へ持ち帰らない社員がおり、被扶養者の元へ渡らない。</li> <li>・ 広報誌が加入者にどのように受け止められているのかわからない。</li> </ul>		
	評価	3. 60%以上		
No.	内容			
6	事業名	ジェネリック利用促進の通知		
	予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】 ジェネリック医薬品の利用促進 【概要】 薬の削減効果が一定額以上見込まれる対象者に、差額通知を送付。
	事業分類	7		
	事業費(千円)	19 千円	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 対象者分類 基準該当者 年齢 0～74
	振り返り	<p><b>実施状況・時期</b> 平成27年7月実施 通知人数 432名 切替者31名（レセプト出現者の24.8%）</p> <p><b>成功・推進要因</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象者の自宅宛に直接送付。</li> <li>・ 通知文書に「ジェネリックお願いシール」を同封し、診察券や保険証に貼ってもらうよう促した。</li> <li>・ 保険証発行の都度、お願いシールを同封。</li> </ul> <p><b>課題及び阻害要因</b> 若年層のジェネリック使用率が低い。 25年度までは18歳以上を対象に利用促進通知を送付していたが、26年度からは18歳未満も対象とした。</p>		
	評価	3. 60%以上		

No.	内容			
7	事業名	医療費通知		
	予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】健康意識の向上と不正請求の防止。 【概要】3ヶ月毎に世帯ごとの医療費を事業主を経由して送付。
	事業分類	4		
	事業費(千円)	351千円	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 対象者分類 全員 年齢 0～74
	振り返り	<b>実施状況・時期</b> 3,500通×年4回発行=14,000通 <b>成功・推進要因</b> 医療費通知を見た被保険者からの連絡で、医療機関からの不正請求が発覚する事例があった。 <b>課題及び阻害要因</b> 事業所を経由して配布しているため、加入者の多い事業所は配布に時間がかかる。その結果、加入者にとっては数か月前の医療費情報が届くことになり、タイムラグが大きくなってしまふ。		
評価	5 . 100%			

No.	内容			
8	事業名	健康保険パンフレットの配布		
	予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】健康保険の理解促進 【概要】健康保険の資格を取得した被保険者に、健康保険制度や給付内容を記載した冊子を配布。
	事業分類	4		
	事業費(千円)	12千円	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 対象者分類 全員 年齢 18～74
	振り返り	<b>実施状況・時期</b> 配布者 297名 <b>成功・推進要因</b> - <b>課題及び阻害要因</b> 制度変更などにより冊子の内容が古くなっている。(ホームページを見るように案内している)		
評価	5 . 100%			

No.	内容			
9	事業名	ホームページでの情報発信		
	予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】情報発信、健康意識の醸成 【概要】医療保険制度、保健事業への取組を幅広く提供する。

事業分類	4		
事業費(千円)	394 千円	対象者	<b>資格</b> 被保険者・被扶養者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>対象者分類</b> 全員 <b>年齢</b> 0～74
振り返り	<b>実施状況・時期</b> インターネットにて公開中 <b>成功・推進要因</b> ・加入者から募集した写真を毎月トップページに掲載したり、機関誌に掲載したクイズの回答をホームページに掲載することなどでアクセス数の向上を図る。 ・タイムリーな情報提供により健保が実施する保健事業等の広報につながっている。 <b>課題及び阻害要因</b> ホームページの知名度が低い。		
評価	3. 60%以上		

No.	内容		
10	事業名	受診勧奨通知（中・高リスク）	
	予算科目	疾病予防	<b>事業の目的および概要</b> <b>【目的】</b> 生活習慣病の重症化予防と早期治療 <b>【概要】</b> 検査項目が基準に該当した未治療者に対し、健保と事業所が連名で受診勧奨の文書を送付（事業所経由または直接自宅に送付）
	事業分類	2	
	事業費(千円)	10 千円	<b>対象者</b> <b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 一部の事業所 <b>性別</b> 男女 <b>対象者分類</b> 基準該当者 <b>年齢</b> 18～74
	振り返り	<b>実施状況・時期</b> 対象者 9名 受診者 1名 受診率 11.1% <b>成功・推進要因</b> 健保と事業所の連名で送付したため、強制力が強く働いた。同封した受診状況アンケートの回答から、現在の受診状況や未受診の理由等の状況を把握できた。 <b>課題及び阻害要因</b> 受診をするものの、医者から「問題ない」「経過観察」となったケースが多くあった。来年度からは基準値を見直す必要がある。	
	評価	4. 80%以上	

No.	内容		
11	事業名	健康情報の提供（ポピュレーション・アプローチ）	

予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】健康意識をの向上 【概要】健診の検査項目が一定基準（低リスク）の該当者に対し、情報提供用紙を送付する事業であったが、H28年度より、ICTを活用した健康Webを開設し、全被保険者に対し、健診結果（経年）、健康リスク、改善対策、健康年齢（健診結果を分かりやすく年齢で表したオリジナル指標）、健康に関する啓蒙記事、健保からのお知らせ等の健康情報を提供し、ヘルスリテラシー向上を図る。
事業分類	2		
事業費(千円)	1,600 千円	対象者	<b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 一部の事業所 <b>性別</b> 男女 <b>対象者分類</b> 基準該当者 <b>年齢</b> 18～74
振り返り	<b>実施状況・時期</b> 対象者数 0名 <b>成功・推進要因</b> 健診結果を経年でグラフ化。健康リスク度をポイント化して掲載するなど、わかりやすい内容にして送付。 <b>課題及び阻害要因</b> 数値としての効果（結果）が見えにくいので、評価が難しい。		
評価	4. 80%以上		

No.	内容			
12	事業名	ウォーキングイベント（ポピュレーション・アプローチ）		
	予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	体育奨励事業では運動習慣の定着が難しいため、新たな事業を開始する。被保険者を対象にウォーキングイベントを開催する。これにより、被保険者の運動習慣を身に着けるきっかけとしてもらうことを目的とする。参加者には無料で活動量計を配って参加者を募り、また日々歩いた者にはポイントを付与してウォーキング継続の推進力とする。事業運営には新たにICTを活用する。結果として、健康リスクが減少することを期待する。
	事業分類	7		
	事業費(千円)	8,880 千円	対象者	<b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>対象者分類</b> 全員 <b>年齢</b> 18～65
	振り返り	<b>実施状況・時期</b> H28年度9月より開始。 <b>成功・推進要因</b> 実績なし。 <b>課題及び阻害要因</b> 実績なし。		
	評価	1. 39%以下		

No.	内容			
13	事業名	人間ドック		
	予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	<b>【目的】</b> 病気の早期発見及び予防 <b>【概要】</b> 費用の一部を補助（35歳以上が対象）上限：被保険者25,000円、被扶養配偶者20,000円

事業分類	1		
事業費(千円)	3,302 千円	対象者	<b>資格</b> 被保険者・被扶養者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>対象者分類</b> 全員 <b>年齢</b> 35～74
振り返り	<b>実施状況・時期</b> 対象者数 5,013名 受診者数 141名 受診率 2.8% <b>成功・推進要因</b> リピーターが多い。 <b>課題及び阻害要因</b> ・受診率が低く、新規受診者が少ない。 ・人間ドック補助金の認知度が低い。		
評価	1. 39%以下		

No.	内容		
14	事業名	PET/CT（被保険者）	
	予算科目	疾病予防	<b>事業の目的および概要</b> 【目的】 病気の早期発見と予防 【概要】 費用の一部補助（35歳以上の被保険者が対象）上限：40,000円
	事業分類	1	
	事業費(千円)	400 千円	<b>対象者</b> <b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>対象者分類</b> 全員 <b>年齢</b> 35～74
	振り返り	<b>実施状況・時期</b> 対象者数 3,221名 受診者数 10名 利用率 0.3% <b>成功・推進要因</b> - <b>課題及び阻害要因</b> ・受診率が低い。 ・PET/CTそのものや、補助金の認知度が低い。	
	評価	1. 39%以下	

No.	内容		
15	事業名	電話健康相談	
	予算科目	疾病予防	<b>事業の目的および概要</b> 【目的】 ころと体の健康維持 【概要】 健康・介護・育児など心身に関わる悩みを電話やメール等で相談受付
	事業分類	5	

事業費(千円)	1,139 千円	対象者	<b>資格</b> 被保険者・被扶養者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>対象者分類</b> 全員 <b>年齢</b> 0～74
振り返り	<b>実施状況・時期</b> からだの相談件数 70件 こころの相談件数 11件 <b>成功・推進要因</b> 広報誌やホームページ等で相談窓口の広報をした。 <b>課題及び阻害要因</b> ・広報がワンパターン化しており、利用率も低い状況。 ・今後は利用案内のチラシを配布するなどをして広報を強化する。		
評価	3. 60%以上		

No.	内容			
16	事業名	インフルエンザ予防接種		
	予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	<b>【目的】</b> インフルエンザの予防 <b>【概要】</b> インフルエンザ予防接種を受けた被保険者に対し、上限2,000円まで補助金を支給。
	事業分類	7		
	事業費(千円)	8,611 千円	対象者	<b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>対象者分類</b> 全員 <b>年齢</b> 18～74
	振り返り	<b>実施状況・時期</b> 被保険者数 4,221名 接種者 2,931名 利用率 69% <b>成功・推進要因</b> 人数の多い事業所では勤務時間内に集団接種を実施しており、利用しやすい状況であった。 <b>課題及び阻害要因</b> インフルエンザ予防接種による費用対効果ははっきりとわからない。		
	評価	4. 80%以上		

No.	内容			
17	事業名	救急医薬品の送付		
	予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	<b>【目的】</b> 病気、ケガの応急処置 <b>【概要】</b> 健康保険の資格取得者に医薬品の入った救急箱を送付
	事業分類	7		
	事業費(千円)	615 千円	対象者	<b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>対象者分類</b> 全員 <b>年齢</b> 18～74

振り返り	<b>実施状況・時期</b>	配布者 185名
	<b>成功・推進要因</b>	-
	<b>課題及び阻害要因</b>	-
評価	5. 100%	

No.	内容			
18	事業名	体育奨励		
	予算科目	体育奨励	事業の目的 および概要	【目的】従業員の体力づくり 【概要】会社で行われる運動会等のスポーツイベントに対する費用補助（年1回/一人当たり2,000円）
	事業分類	7		
	事業費(千円)	319千円	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 対象者分類 全員 年齢 18～74
	振り返り	<b>実施状況・時期</b> 対象者 4,090名 実施者 239名 利用率 5.8%  <b>成功・推進要因</b> 従業員の体力づくりだけでなく、従業員同士の交流にもなっている。 <b>課題及び阻害要因</b> 運動会自体の開催が少ないため、例年利用率が低い。		
	評価	1. 39%以下		

No.	内容			
19	事業名	保養所利用補助		
	予算科目	直営保養所	事業の目的 および概要	【目的】加入者の心身のリフレッシュ 【概要】日本国内の保養所を利用した場合、年度内1回に限り費用を補助。
	事業分類	7		
	事業費(千円)	3,389千円	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 対象者分類 全員 年齢 6～74
	振り返り	<b>実施状況・時期</b> 対象者（小学生以上） 9,557名 利用者 973名 利用率10.2%  <b>成功・推進要因</b> 全国すべての宿泊施設が対象となる。リピーターが多い。 <b>課題及び阻害要因</b> パッケージツアーは対象外となるため、補助金の対象とならないケースが多く、利用率が低い。		
	評価			





## 事業主の取組

No.	内容	
1	事業名	定期健康診断
	事業の目的および概要	安衛法に基づく健診 対象者 資格 被保険者 性別 男女 年齢 18～74
	振り返り	実施状況・時期 実施率 94% 成功・推進要因 勤務時間中の受診可 課題及び阻害要因 -
	共同実施	有

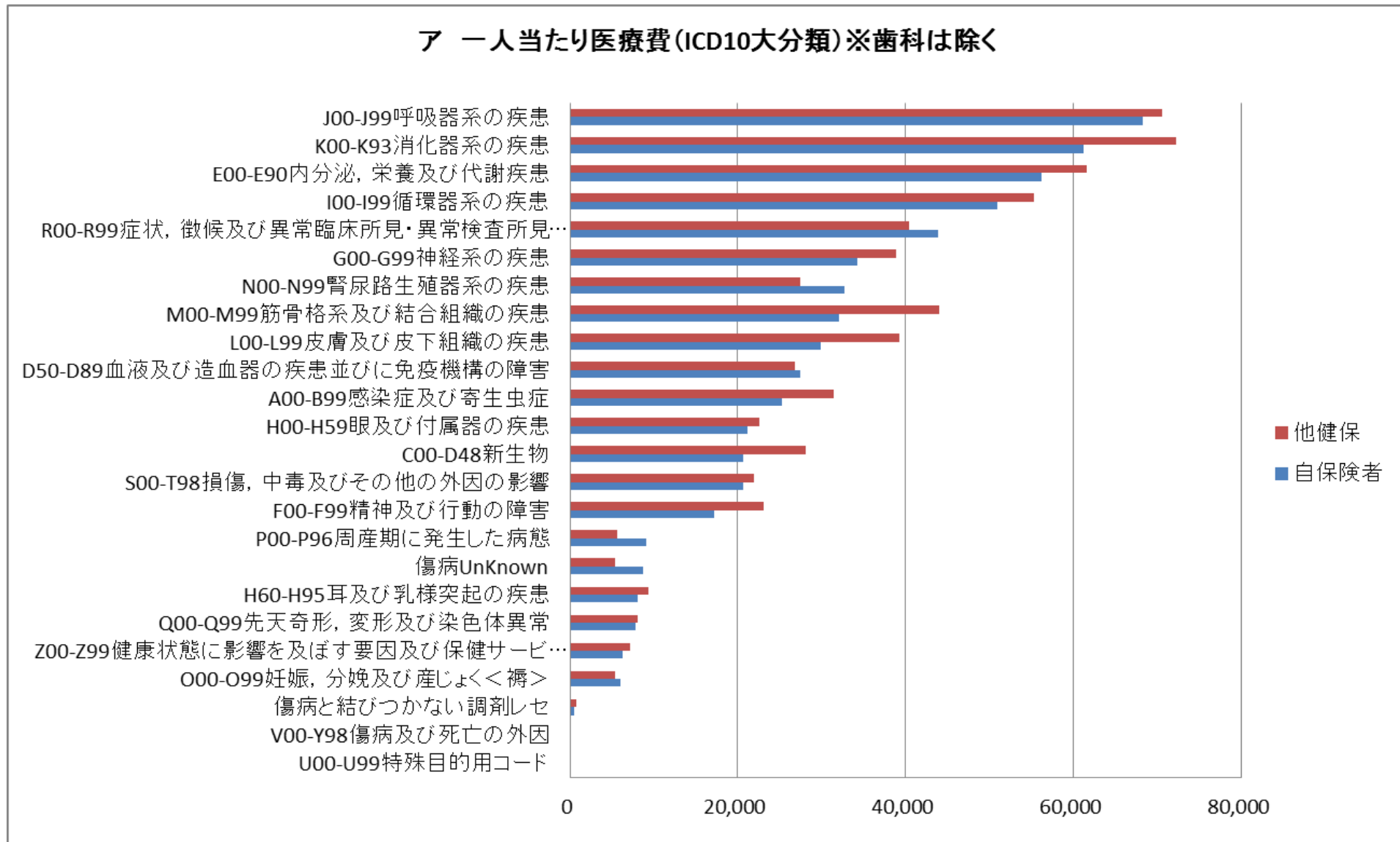
No.	内容	
2	事業名	健康診断事後措置に伴う指導
	事業の目的および概要	健康診断の結果から治療が必要な従業員に対して、生活習慣の指導および治療状況を確認。産業医、または保健師がいない事業所に対しては健保が実施している。 対象者 資格 被保険者 性別 男女 年齢 18～74
	振り返り	実施状況・時期 対象者数 実施者数 実施率 成功・推進要因 健診受診後、産業医または保健師（看護師）から直接または通知等により受診勧奨を行っている。重症化予防の観点から、就業制限を考慮して行っている。 課題及び阻害要因 -
	共同実施	有

No.	内容	
3	事業名	ストレスチェック
	事業の目的および概要	労働者自身のストレスの状況についての気づきを促し、ストレスの状況を早期に把握して必要な措置を講じることにより、労働者がメンタルヘルス不調となることを未然防止する。 対象者 資格 被保険者 性別 男女 年齢 18～74

振り返り	<b>実施状況・時期</b>	健康診断とセットでWEB上で受診。受診率は99.2%。
	<b>成功・推進要因</b>	健康診断とセットで受診するため、受診率が高い。回答者の記憶が確かな内に、回答後2日以内にコンタクトした。
	<b>課題及び阻害要因</b>	誤回答が時々あり、質問の改善が必要。
共同実施		無

No.	内容	
4	事業名	<b>メンタルヘルス研修</b>
	事業の目的および概要	一般職と管理職向けにメンタルヘルス研修を実施。 対象者 <b>資格</b> 被保険者 <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～74
	振り返り	<b>実施状況・時期</b> 全社員（一般職と管理職）を対象にメンタルヘルス研修を実施。モチベーションマネジメント研修（年2回。165人）、脳の活性化を考慮した体力測定（年2回）、部署単位の組織活性化研修（年9部署）。 <b>成功・推進要因</b> 安全衛生委員会で周知。社内安全表彰の加点対象項目とした。 <b>課題及び阻害要因</b> 希望者を対象に行っているが、今のところ満足のいく実施状況。モチベーション向上の評価はアンケートでしか測れていない。
	共同実施	無

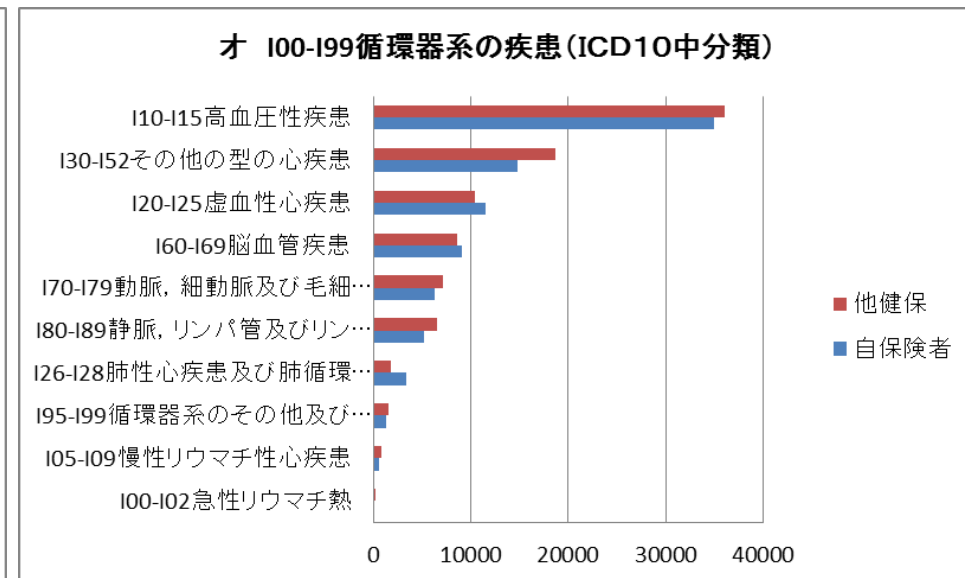
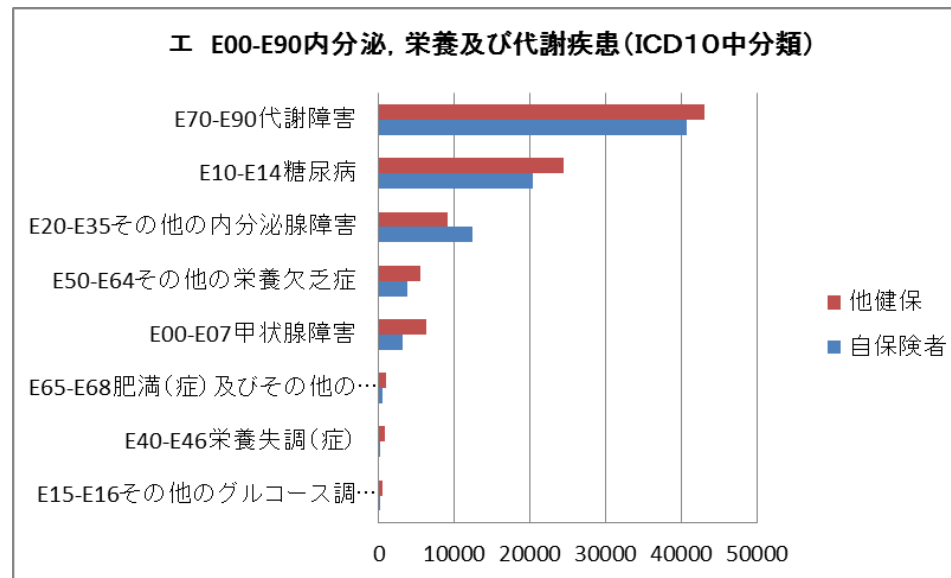
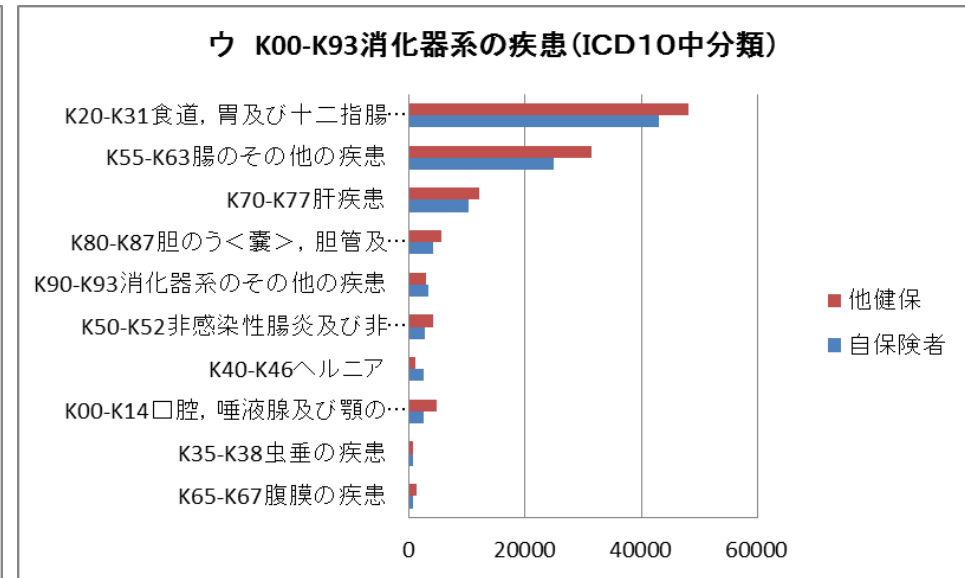
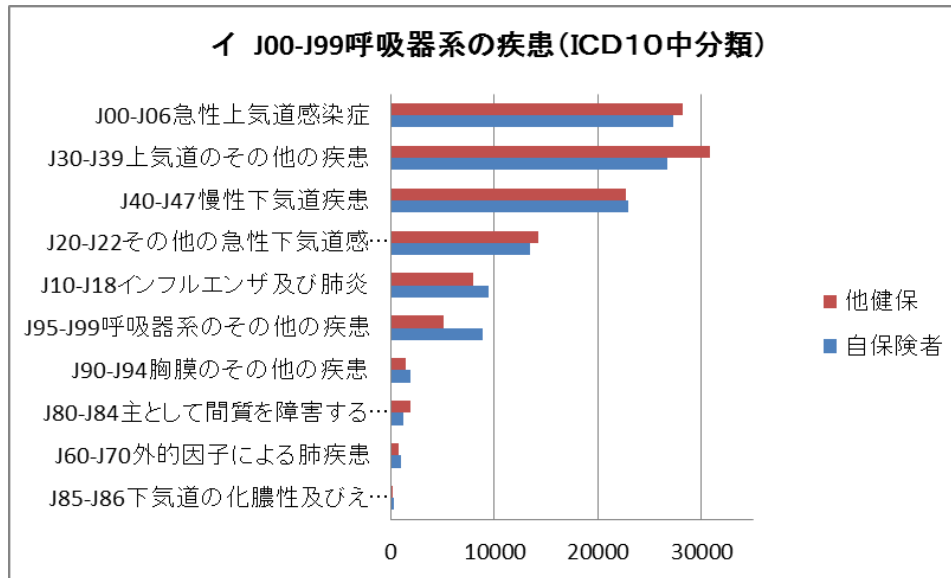
## STEP 1 - 3 平成24～25年度 (ICD10大分類) 一人当たり医療費



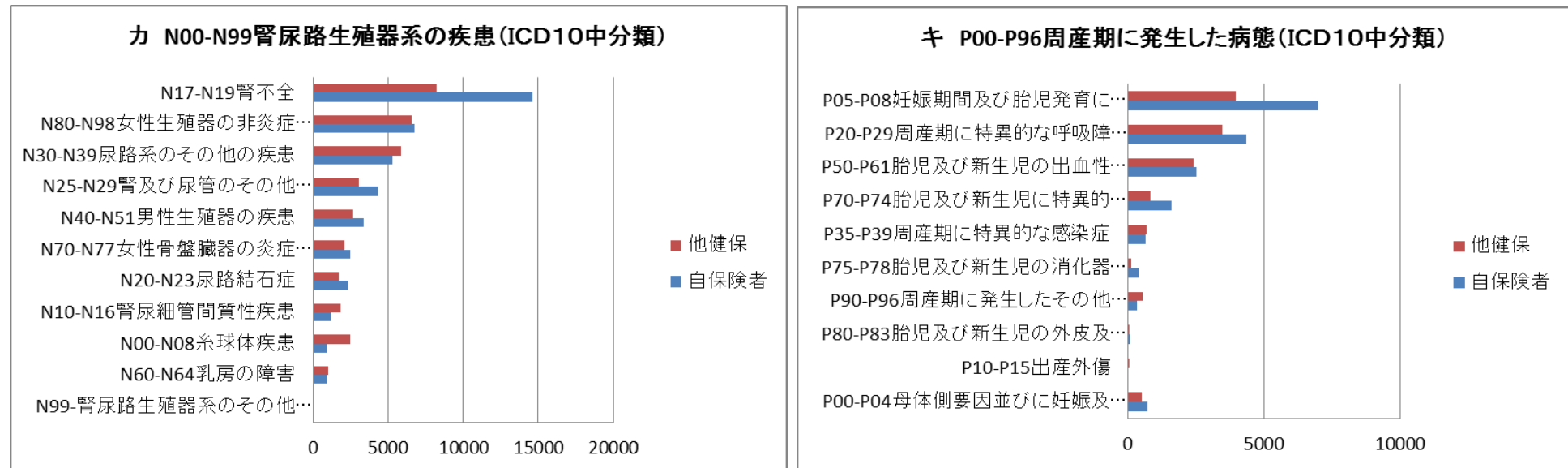
ア

歯科を除いた一人当たり医療費では、「呼吸器系の疾患」「消化器系の疾患」「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」の順となっていた。また、「腎尿路生殖器系の疾患」「周産期に発生した病態」が他の健康保険組合より高い。

## STEP 1 - 4 平成24～25年 (ICD10中分類) 一人当たり医療費と実患者数

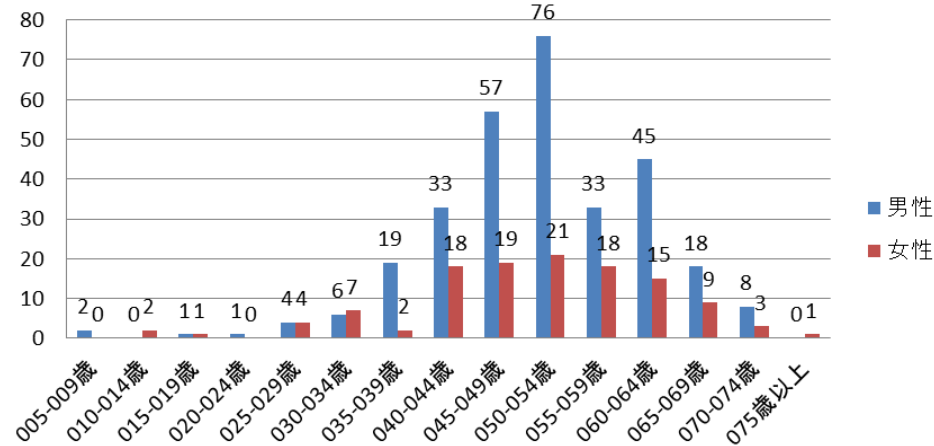
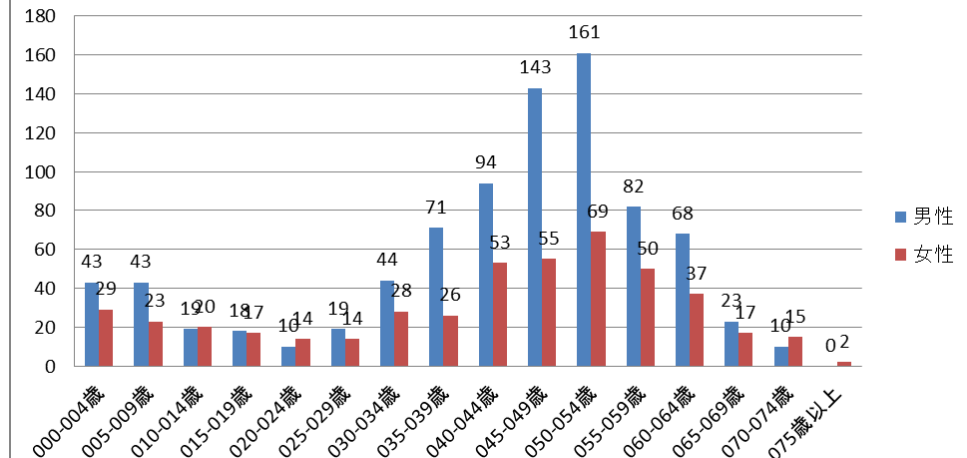
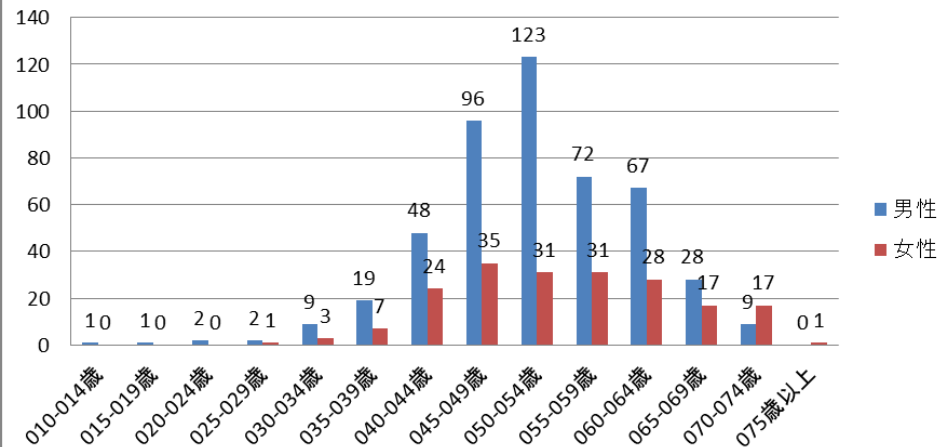
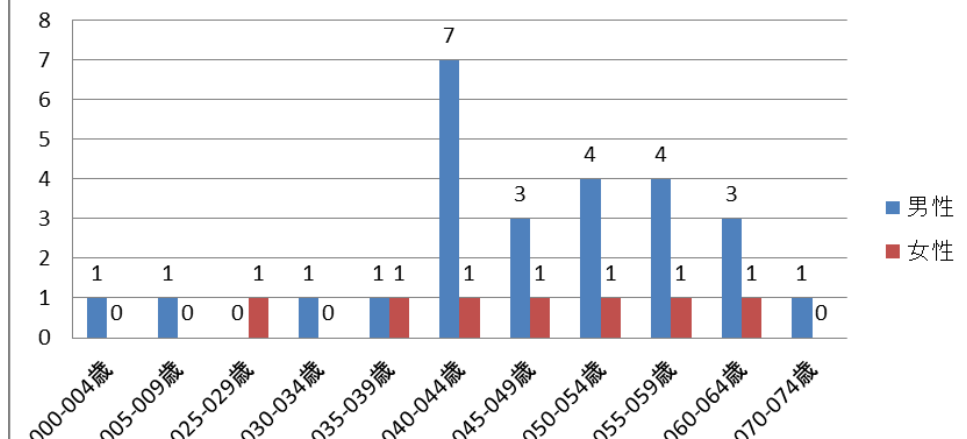


## STEP 1 - 4 平成24～25年 (ICD10中分類) 一人当たり医療費と実患者数



イ～オ	上位の疾病をさらに詳しく調べると、イ「呼吸器系の疾患」では、風邪やインフルエンザ等の疾患が上位になっている。ウ「消化器系の疾患」では、食道や胃炎等の疾患が上位に。エ「内分泌、栄養及び代謝疾患」とオ「循環器系の疾患」では、脂質異常、糖尿病、高血圧性疾患などの生活習慣病が上位になっている。
カ、キ	他健保より医療費の高かった「腎尿路生殖器系の疾患」の中でも、特に「腎不全」の医療費が高い。周産期に発生した病態は全体的に他健保の平均を上回っている。

## STEP 1 - 4 平成24～25年 (ICD10中分類) 一人当たり医療費と実患者数

(A) H25年度 年齢別・男女別の  
糖尿病の実患者数(B) H25年度 年齢別・男女別の  
代謝障害の実患者数(C) H25年度 年齢別・男女別の  
高血圧の実患者数(D) H25年度 年齢別・男女別の  
腎不全の実患者数

A~D

生活習慣病の男女別の実患者数をみると、総じて男性の患者数が多いことがわかる。糖尿病、高血圧では30代後半から患者数が増加傾向にあり、代謝障害では30代前半から患者数が多くなっている。腎不全に関しては、40代以降の患者数が多い。

## STEP 1 - 5 平成25年度 健康マップ

ク

健康マップ(生活習慣病からみた分布)

期間: 201304~201403

対象年齢: 40~60歳

事業所: 自健保 標準母集団 健保全体

未通院(生活習慣病のレセプトが無い人)				通院/入院(生活習慣病のレセプトがある人)			
正常	不健康な生活	患者予備群	治療放置群	生活習慣病	重症化	生活機能の低下	再発予備群
正常値レベル	保健指導が必要なレベル	病院で診察を受けたほうが良いレベル	治療する必要があるレベル	合併症はない	合併症に進行しています	重篤な状態になっています	入院後の状態です
血糖: 110mg/dl未満又は HbA1c5.6%未満	血糖: 110mg/dl以上又は HbA1c5.6%以上	血糖: 126mg/dl以上又は HbA1c6.5%以上	血糖: 140mg/dl以上又は HbA1c7.0%以上	2型糖尿病・高血圧症・ 脂質異常症のいずれか があり、合併症はない 状態	生活習慣病があり、糖 尿病性合併症・脳血管 疾患・動脈疾患・虚血性 心疾患がある状態	入院を伴う四肢切断急 性期・冠動脈疾患急性 期・脳卒中急性期、およ び透析期の状態	「生活機能の低下」の該 当が1年前にあったが、 当該年度は入院はない 状態
血圧: 85/130mmHg未満	血圧: 85又は130mmHg以上	血圧: 90又は140mmHg以上	血圧: 100又は160mmHg以上				
中性脂肪: 150mg/dl未満 又はLDL:120未満 又はHDL:40以上	中性脂肪: 150mg/dl以上 又はLDL:120以上 又はHDL:40未満	中性脂肪: 300mg/dl以上 又はLDL:140以上 又はHDL:35未満	中性脂肪: 400mg/dl以上 又はLDL:160以上 又はHDL:30未満				

■該当者人数(上段:当期)(下段:前期)

484	615	471	339	618	175	5	7
494	649	454	343	561	170	10	0

●該当者人数の構成割合(%)

17.8	22.7	17.4	12.5	22.8	6.4	0.2	0.3
------	------	------	------	------	-----	-----	-----

●前年度構成割合(%)

18.4	24.2	16.9	12.8	20.9	6.3	0.4	0.0
------	------	------	------	------	-----	-----	-----

●標準母集団(他健保54万人(対象者:39万人))の構成割合(%) [対象者の平均年齢:49歳]

16.8	25.1	15.2	9.2	26.0	7.3	0.2	0.1
------	------	------	-----	------	-----	-----	-----

■該当者の1人当り医療費(平均値)(円)

68,729	85,303	59,597	51,661	199,350	719,816	4,455,580	1,544,045
--------	--------	--------	--------	---------	---------	-----------	-----------

●[上段]該当者の総医療費合計、[下段]会社が負担している費用(千円)

33,264	52,461	28,070	17,513	123,198	125,967	22,277	10,808
--------	--------	--------	--------	---------	---------	--------	--------

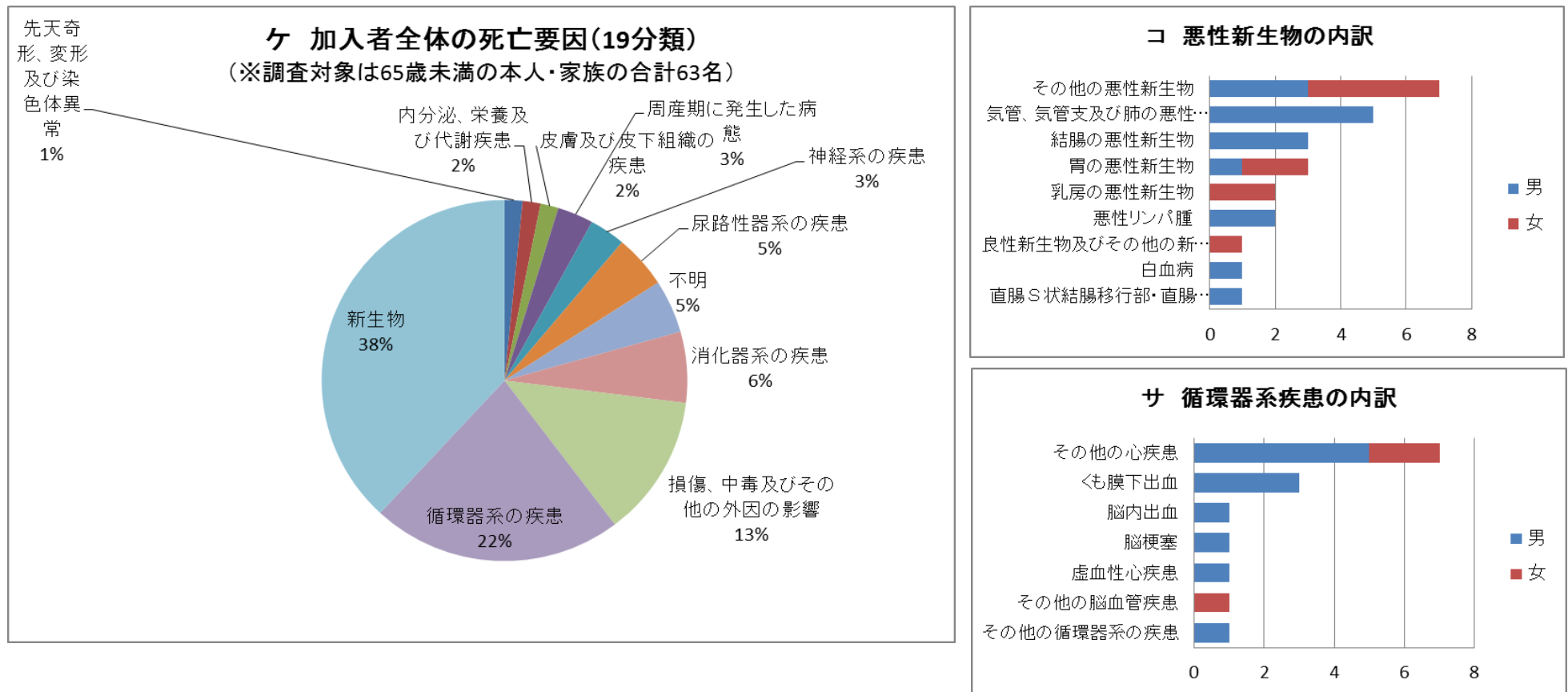
11,642	18,361	9,824	6,129	43,119	44,088	7,797	3,782
--------	--------	-------	-------	--------	--------	-------	-------

ク 健診結果から生活習慣病の治療状況を見ると、治療放置群が339人(全体の12.5%)いる。また、他健保と比較して治療放置群の割合が3.3%高い。





## STEP 1 - 6 過去10年間に於ける加入者の死亡要因



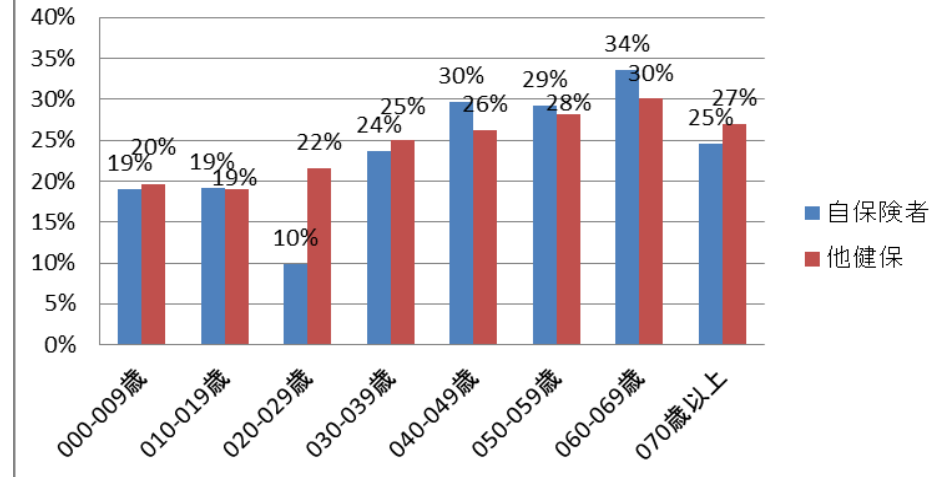
ケ、コ、サ

過去10年間に支給された埋葬費から死亡要因を調査したところ、悪性新生物(がん)による死亡が全体の約40%を占めている。続いて、くも膜下出血や脳出血、脳梗塞などの循環器系の疾患が多い。

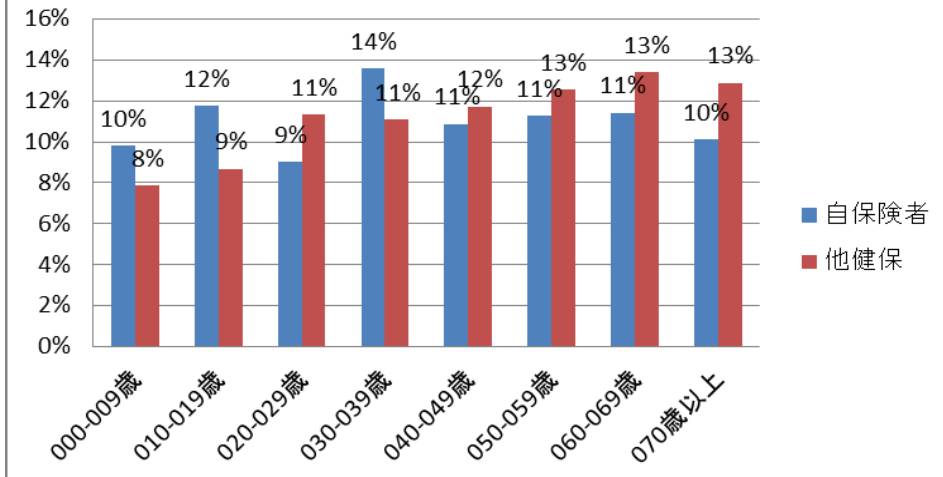
## STEP 1 - 7 平成25年度 ジェネリック医薬品の利用状況

利用率	薬剤費	薬剤数
自健保	9.7%	23.1%
他健保	9.7%	23.7%

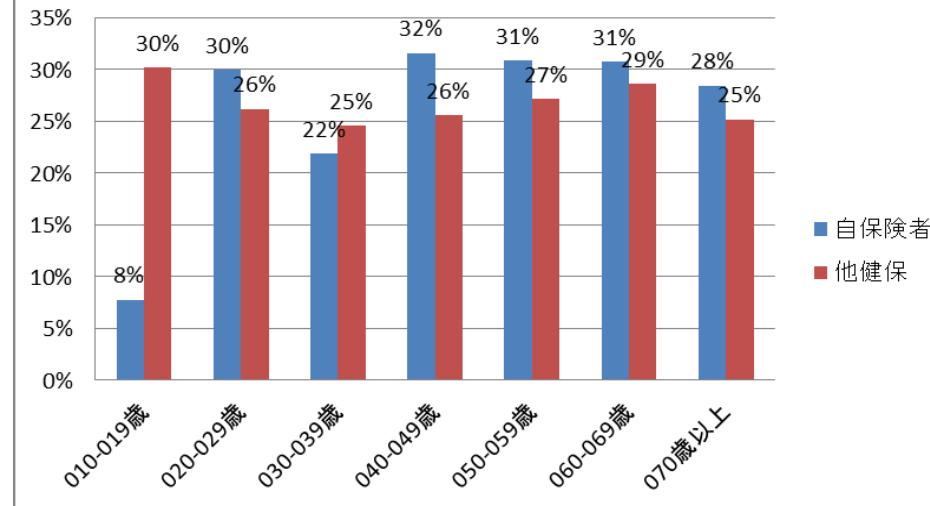
シ 年代別の薬剤数ベース利用率



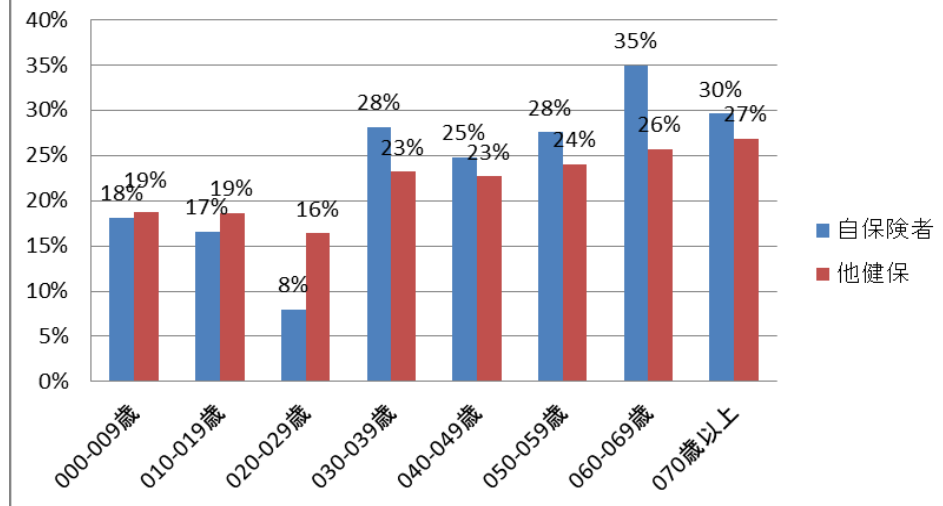
ス 年代別の薬剤費ベース利用率



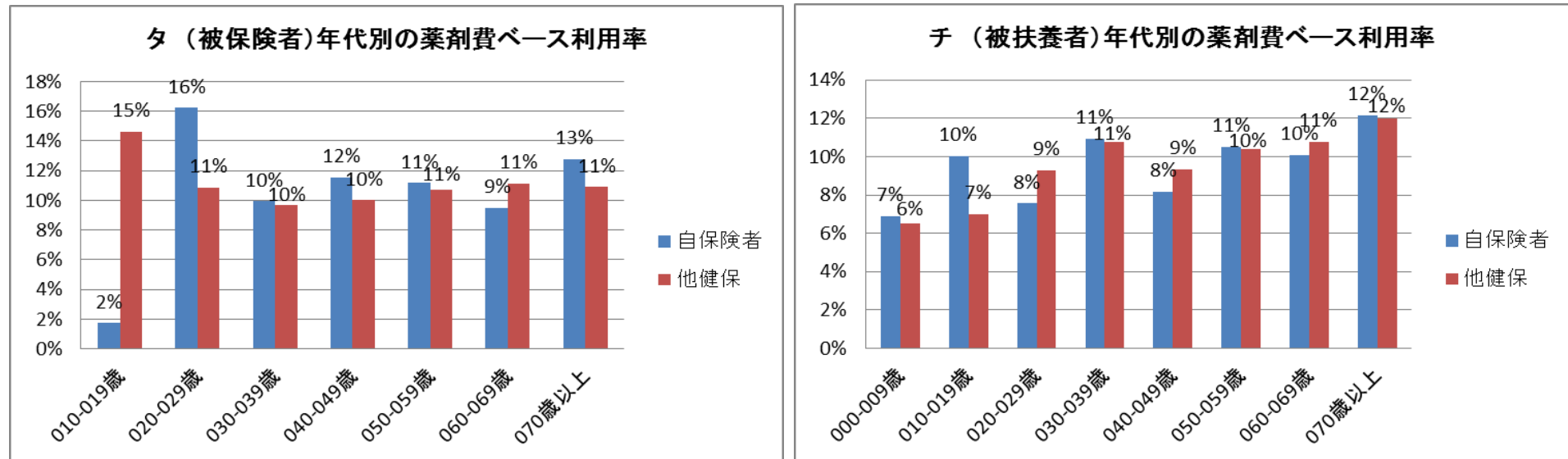
セ (被保険者)年代別の薬剤数ベース利用率



ソ (被扶養者)年代別の薬剤数ベース利用率



## STEP 1 - 7 平成25年度 ジェネリック医薬品の利用状況



シ、ス	年代ごとのジェネリック利用率は、薬剤数・薬剤費ともに20代の利用率が特に低い。
セ、ソ、タ、チ	被保険者と被扶養者ごとの薬剤数ベースの利用率では、全体的に被扶養者の利用率が低く、特に20代以下の若年層の利用率が低いことがわかった。

## STEP 2 健康課題の抽出

No.	STEP1 対応項目	基本分析による現状把握から見える主な健康課題		対策の方向性	優先すべき 課題
1	ア, イ	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。	➔	「内分泌、栄養及び代謝疾患」や「循環器系の疾患」は予防対策が可能であり、健診データからリスク者を把握できるため、今後は生活習慣病予防の対策を講じていく。比較的若い30代から患者数が増加していることをふまえ、早い段階からの対策が必要である⇒加入者への意識付け、重症化予防、特定保健指導等	✓
2	ア, イ	「腎尿路生殖器系の疾患」では腎不全が上位疾病で、他健保と比較して一人当たりの医療費が高い。	➔	腎不全の患者が多いことから、生活習慣病健診（35歳以上が対象）にクレアチニンの検査項目を追加して対策を講じる（平成27年度から実施予定）⇒重症化予防	
3	ウ	生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。	➔	平成26年7月から実施している受診勧奨を今後も積極的に行う。⇒受診勧奨の推進	✓
4	エ	埋葬費の支給要因（死亡要因）の第一位（38%）が「悪性新生物（がん）」である。	➔	平成27年度より、自治体が行う各種がん検診を受けた場合、その費用を補助する⇒がんの早期発見	
5	オ	年代別のジェネリック医薬品利用率（数量ベース）では、20代以下の被扶養者の利用率が低い。	➔	25年度までは18歳以上を対象にジェネリックの差額通知を行っていたが、26年度からは18歳未満も対象に通知を送付。27年度も若年層を含めて幅広く通知を行い、広報誌などで積極的にジェネリック医薬品のPRを行う⇒差額通知、広報活動の強化	

## 基本情報

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の拠点が全国にある。</li> <li>・30歳代後半から40歳代に加入者構成が偏っている。</li> <li>・被保険者は、男性が87%を占めている。</li> <li>・健保組合に医療専門職はいない。</li> </ul>	➔	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所が全国に点在するため、健保組合が加入者に直接働きかけるには労力が必要である。そのため、事業主の協力を得ながら事業を運営することが重要である。</li> <li>・将来の加入者構成を考えると、30代後半から40歳代の加入者に対するアプローチが重要である。</li> <li>・被保険者は男性が大多数を占めるため、生活習慣病対策を重点的に行う必要がある。</li> <li>・健保組合に医療専門職がいなかったが、新たに採用し、事業所の専門職や産業医、外部事業者と連携しながら業務を運営する。</li> </ul>

## 保健事業の実施状況

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
-----	----	--	--------------

1

- ・被扶養者の特定健診受診率が低下傾向にある。
- ・特定保健指導の実施率が低い。
- ・人間ドック・PETの受診率が低く、受診者が固定化されている。
- ・電話相談の利用率が低い。
- ・機関誌を家に持ち帰らない社員がいる。



- ・被扶養者の特定健診受診に向けては、健保だけでなく事業主の協力を得ることが重要。26年度までは受診期間を1月末としていたが、27年度からは3月末までに延長する。また、事業所別・エリア別に受診状況を調査し、今後の対策を測る。
- ・27年度からは特定保健指導の対象者を増やして実施率を上げる。
- ・節目健診を推奨するなど、ドックの受診率向上の広報を強化して行う。
- ・電話相談の利用に向けた広報（ホームページ、機関誌等）を強化する。
- ・機関誌の内容を充実させ、持ち帰るように促す。

## STEP 3 保健事業の実施計画

### 事業全体の目的

生活習慣病の発生を予防するため、生活習慣病の高リスク者である当組合基準「治療放置群」の割合を減少させる。

### 事業全体の目標

治療放置群の割合を10%以下にする。

## 事業の一覧

### 職場環境の整備

- 1 健康管理事業推進合同委員会
- 2 保健事業推進のための各事業所との個別会議

### 加入者への意識づけ

- 1 機関誌発行
- 2 健康保険パンフレットの配布
- 3 ホームページでの情報発信

### 個別の事業

- 1 特定健診（被保険者）
- 2 特定健診（被扶養者）
- 3 生活習慣病健診（35歳以上の被保険者）
- 4 特定保健指導
- 5 ジェネリック利用促進の通知
- 6 医療費通知
- 7 受診勧奨通知（中・高リスク）
- 8 情報提供用紙（ポピュレーション・アプローチ）
- 9 ウォーキングイベント（ポピュレーション・アプローチ）
- 10 人間ドック
- 11 PET/CT（被保険者）
- 12 インフルエンザ予防接種
- 13 救急医薬品の送付
- 14 体育奨励
- 15 保養所利用補助
- 16 電話健康相談

## 【保健事業の基盤】職場環境の整備

1	事業名	健康管理事業推進合同委員会		
健康課題との関連	<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p> <hr/> <p>生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。</p>			
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	健診結果、レセプト等に基づき各事業所の健康状態を分析した結果について健康保険組合と事業所とが共通認識を持ち、両者が協力して改善のための施策を検討し、保健事業を推進しやすい環境基盤を構築する。	
事業分類	1-ア			
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 全員	
実施主体	3. 健保組合と事業主との共同事業			
実施計画 (平成28年度)	7月に開催する。この中で各事業所における保険事業推進の前年度評価、次年度計画を報告してもらい、全事業所間での意見交換を図る。			
事業目標				
アウトプット指標		会議開催（【実績値】1回【目標値】平成28年度：1回）本会議を年1回以上開催。		
アウトカム指標		会議の成果については、各保険事業の成果で確認する。 (アウトカムは設定されていません)		

2	事業名	保健事業推進のための各事業所との個別会議		
健康課題との関連	<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p> <hr/> <p>生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。</p>			
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	健診結果、レセプト等に基づき各事業所の健康状態を分析した結果について健康保険組合と事業所とが共通認識を持ち、両者が協力して改善のための施策を検討し、保健事業を推進しやすい環境基盤を構築する。特に、事業所の個別性に応じた議論の場とする。	
事業分類	1-ア			
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 一部の事業所 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 全員	

実施主体	3. 健保組合と事業主との 共同事業
実施計画 (平成28年度)	規模の大きい主たる4事業所と個別会議を開催し、保健事業を推進する基盤を構築する。
事業目標	
アウトプット指標	会議開催（【実績値】 - 【目標値】平成28年度：1回）主たる4事業所との個別会議を年1回以上開催する。
アウトカム指標	個別会議の成果については、各保険事業の成果で確認する。 (アウトカムは設定されていません)



## 【保健事業の基盤】 加入者への意識づけ

1	事業名		機関誌発行
健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。		
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】 情報発信、健康意識の向上 【概要】 機関誌の発行（内容：健保の運営、収支、保健事業の案内、健康情報の提供等）
事業分類	2-イ		
新規・既存区分	既存	対象者	<b>資格</b> 被保険者・被扶養者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～74 <b>対象者分類</b> 全員
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成28年度)	継続		
事業目標			
<b>アウトプット指標</b>	健保日より発行件数（【実績値】4回【目標値】平成28年度：3回）毎年最低3回発行。		
<b>アウトカム指標</b>	最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区別が難しい。 (アウトカムは設定されていません)		

2	事業名		健康保険パンフレットの配布
健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。		
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】 健康保険の理解促進 【概要】 健康保険の資格を取得した被保険者に、健康保険制度や給付内容を記載した冊子を配布。
事業分類	2-イ		
新規・既存区分	既存	対象者	<b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～74 <b>対象者分類</b> 全員
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成28年度)	継続実施		
事業目標			

**アウトプット指標** 配布率（【実績値】100%【目標値】平成28年度：100%）保険証発行と同時に、パンフレットを確実に配布する。

**アウトカム指標** 最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区分けが難しい。  
(アウトカムは設定されていません)

3	事業名	ホームページでの情報発信	
健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。		
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】情報発信、健康意識の醸成 【概要】医療保険制度、保健事業への取組を幅広く提供する。
事業分類	2-ア		
新規・既存区分	既存	対象者	<b>資格</b> 被保険者・被扶養者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 0～74 <b>対象者分類</b> 全員
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成28年度)	健保HPだけで情報発信するには現状の機能が不足している。H28年度より、新たに健康Web/PepUpを開設し、Webにより情報発信とする。対象は被保険者全員とする。提供情報としては、健診結果（経年）、健康リスク、改善対策、健康年齢（健診結果を分かりやすく年齢で表したオリジナル指標）、健康に関する啓蒙記事、健保からのお知らせ等。		
事業目標			
<b>アウトプット指標</b>			
健康Webへのアクセス数（【実績値】1,770回【目標値】平成28年度：10,000回）従来の健保HPだけでは、アクセス数が月平均1,500回程度。毎月の健康Webへのトータルアクセス回数を平均10,000回/月（加入者人数相当）を目指す。当健保オリジナルの健康Webへアクセスしてもらうことが、被保険者のヘルスリテラシーを向上につながると考え、指標としては健康Webへの毎月のアクセス数（全アクセス数）とし、目標は月平均10,000回（全加入者数相当）とする。			
<b>アウトカム指標</b> 最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区分けが難しい。 (アウトカムは設定されていません)			

## 【個別の事業】

1	事業名		特定健診（被保険者）	
健康課題との関連	<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p> <hr/> <p>生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。</p>			
予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	<p>【目的】生活習慣病の早期発見と健康維持のため</p> <p>【概要】事業主が行う定期健診と併せて実施。（事業所が主体で実施）</p>	
事業分類	3-ア			
新規・既存区分	既存(法定)	対象者	<p><b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 40～74 <b>対象者分類</b> 全員</p>	
実施主体	2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用			
実施計画 (平成28年度)	継続			
事業目標				
<b>アウトプット指標</b>	健診受診案内発信（【実績値】1件【目標値】平成28年度：2件）各事業所に対して健診受診率向上のための要請を行う。文書による通知とWebによる掲示を行う。			
<b>アウトカム指標</b>	健診受診率（【実績値】91.8%【目標値】平成28年度：90.0%）健診受診率90%以上を今度も維持。			

2	事業名		特定健診（被扶養者）	
健康課題との関連	<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p> <hr/> <p>生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。</p>			
予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	<p>【目的】生活習慣病の予防と医療費適正化のため</p> <p>【概要】対象者に受診券を送付し、各自で健診機関に予約して受診。</p>	
事業分類	3-ア			
新規・既存区分	既存(法定)	対象者	<p><b>資格</b> 被扶養者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 40～74 <b>対象者分類</b> 全員</p>	
実施主体	1. 健保組合			

実施計画 (平成28年度)	-
事業目標	
<b>アウトプット指標</b>	健診受診案内（【実績値】100%【目標値】平成28年度：100%）全被扶養者に対して健康診断案内を直接郵送。 受診勧奨（【実績値】0%【目標値】平成28年度：100%）年度末2か月前までに、未受診者に対してはがきと電話により受診勧奨を行う。
<b>アウトカム指標</b>	健診受診率（【実績値】41.1%【目標値】平成28年度：50.0%）健診受診率50%

3	事業名	<b>生活習慣病健診（35歳以上の被保険者）</b>	
健康課題との関連	<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p>		
	生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。		
予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	<p>【目的】生活習慣病の予防と医療費適正化のため</p> <p>【概要】35歳以上の被保険者に対し、特定健診質問票、HbA1c、尿酸値、便潜血、胃部XP（間接）、眼底検査（医師の指示があった場合）の補助を実施。また、一部項目の再検査費用を健保が負担。</p>
事業分類	3-ア		
新規・既存区分	既存	対象者	<p><b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 35～74 <b>対象者分類</b> 全員</p>
実施主体	2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用		
実施計画 (平成28年度)	継続実施		

事業目標	
<b>アウトプット指標</b>	健診受診率（【実績値】89.8%【目標値】平成28年度：90.0%）35～74歳被保険者の健診受診率90%以上を今度も維持。
<b>アウトカム指標</b>	治療放置群の割合（【実績値】14.3%【目標値】平成28年度：10.0%）40～74歳被保険者の生活習慣病の早期発見、治療放置群割合の低減。35～39歳の被保険者は健康体の者が多いため、評価としては40～74歳（個別事業No.1のアウトカム指標と同じ）で行う。

4	事業名	<b>特定保健指導</b>
---	-----	---------------

健康課題との関連	<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p>		
	<p>生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。</p>		
予算科目	特定保健指導事業	事業の目的 および概要	<p>【目的】 疾病予防及び健康改善のため</p> <p>【概要】 対象者を抽出後、事業所と連携を取りながら集団で保健指導を実施。</p>
事業分類	4-ア		
新規・既存区分	既存(法定)	対象者	<p><b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 40～74 <b>対象者分類</b> 基準該当者</p>
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成28年度)	効果検証の上で継続実施		
事業目標			
<p><b>アウトプット指標</b> 特定保健指導実施率（【実績値】 - 【目標値】平成28年度：5.0%）特定保健指導実施率を5.0%以上にする。</p>			
<p><b>アウトカム指標</b> 治療放置群の割合（【実績値】14.3%【目標値】平成28年度：10.0%）生活習慣病の早期発見。治療放置群の割合の低減。指標は、個別事業No.1のアウトカム指標と同じ。</p>			

5	事業名	<b>ジェネリック利用促進の通知</b>	
健康課題との関連	年代別のジェネリック医薬品利用率（数量ベース）では、20代以下の被扶養者の利用率が低い。		
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	<p>【目的】 ジェネリック医薬品の利用促進</p> <p>【概要】 薬の削減効果が一定額以上見込まれる対象者に、差額通知を送付。</p>
事業分類	8-ウ		
新規・既存区分	既存	対象者	<p><b>資格</b> 被保険者・被扶養者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 0～74 <b>対象者分類</b> 基準該当者</p>
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成28年度)	効果額等を踏まえ、通知送付基準及び送付回数を検討し、継続実施。		
事業目標			

**アウトプット指標**

ジェネリック医薬品使用者率（【実績値】34.4%【目標値】平成28年度：40.0%）差額通知の配布者のうちジェネリック医薬品使用者の割合（ジェネリック医薬品使用者率）40%以上。評価期間は、通知発行翌月から同年度3月までの全期間とする。

**アウトカム指標**

ジェネリック医薬品使用割合（【実績値】-%【目標値】平成28年度：80.0%）年度末（3月度）におけるジェネリック医薬品使用割合80%以上

6 事業名		医療費通知	
健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。		
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】健康意識の向上と不正請求の防止。 【概要】3ヶ月毎に世帯ごとの医療費を事業主を経由して送付。
事業分類	2-イ		
新規・既存区分	既存	対象者	<b>資格</b> 被保険者・被扶養者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 0～74 <b>対象者分類</b> 全員
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成28年度)	継続		
事業目標			
<b>アウトプット指標</b>	医療費通知の配布（【実績値】4回【目標値】平成28年度：4回）医療費通知の配布（4回/年）		
<b>アウトカム指標</b>	最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区別が難しい。 (アウトカムは設定されていません)		

7 事業名		受診勧奨通知（中・高リスク）	
健康課題との関連	生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。		
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】生活習慣病の重症化予防と早期治療 【概要】検査項目が基準に該当した未治療者に対し、健保と事業所が連名で受診勧奨の文書を送付（事業所経由または直接自宅に送付）
事業分類	4-イ		
新規・既存区分	既存	対象者	<b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 一部の事業所 <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～74 <b>対象者分類</b> 基準該当者
実施主体	1. 健保組合		



実施計画 (平成28年度)	継続
事業目標	
<b>アウトプット指標</b>	
通知者の受診率（【実績値】15.3%【目標値】平成28年度：20.0%）健保より受診勧奨通知書を発送している受診勧奨対象者に対して、受診勧奨通知後の受診率（治療率）を20%以上にする。	
<b>アウトカム指標</b>	
治療放置群の割合（【実績値】14.3%【目標値】平成28年度：10.0%）生活習慣病の治療放置による重症化を防ぐ。治療放置群の割合を低減する。指標は、個別事業No.1のアウトカム指標と同じ。	

8	事業名	<b>情報提供用紙（ポピュレーション・アプローチ）</b>	
健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。		
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】健康意識をの向上 【概要】健診の検査項目が一定基準（低リスク）の該当者に対し、情報提供用紙を送付。H28年度より、紙媒体を止めて、ICTを活用しWebによる情報発信に切り替えた。
事業分類	2-ア, 4-イ		
新規・既存区分	既存	対象者	<b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 一部の事業所 <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～74 <b>対象者分類</b> 基準該当者
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成28年度)	H28年度より、紙媒体を止めて、ICTを活用しWebにより情報発信とする。対象は被保険者全員とする。提供情報としては、健診結果（経年）、健康リスク、改善対策、健康年齢（健診結果を分かりやすく年齢で表したオリジナル指標）、健康に関する啓蒙記事、健保からのお知らせ等。		
事業目標			
<b>アウトプット指標</b>			
情報提供の実施（【実績値】 - 【目標値】平成28年度：1件）健康に対する意識向上のため、過去の健診結果、健康リスクに関する情報を提供する機会を設ける。H28年度では、健保HPとは別に、ICTを活用した健康Webを開設し、その中で健診結果（経年）、健康リスク、改善対策、健康年齢（健診結果を分かりやすく年齢で表したオリジナル指標）、健康に関する啓蒙記事、健保からのお知らせ等の健康情報を掲載し、全被保険者がいつでも自分だけの情報を見れるようにする。 健康Webへのアクセス数（【実績値】 - 【目標値】平成28年度：10,000回）当健保オリジナルの健康Webへアクセスしてもらうことが、被保険者のヘルスリテラシーを向上につながると考え、指標としては健康Webへの毎月のアクセス数（全アクセス数）とし、目標は月平均10,000回（全加入者数相当）とする。従来の健保HPだけでは、アクセス数が月平均1,500回程度。			
<b>アウトカム指標</b> 最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区別が難しい。 (アウトカムは設定されていません)			

9	事業名	<b>ウォーキングイベント（ポピュレーション・アプローチ）</b>
健康課題との関連	生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。	

予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	体育奨励事業では運動習慣の定着が難しいため、H28年度より新たな事業を開始する。被保険者を対象にウォーキングイベントを開催する。これにより、被保険者の運動習慣を身に着けるきっかけとしてもらうことを目的とする。最終的には、健康リスクが減少することを期待する。									
事業分類	8-ア, 8-イ											
新規・既存区分	新規	対象者	資格	被保険者	対象事業所	全て	性別	男女	年齢	18～65	対象者分類	全員
実施主体	3. 健保組合と事業主との 共同事業											
実施計画 (平成28年度)	H28年9月から開始。ウォーキング・ラリーという名称で、参加者に日々歩いてもらい、6,000歩、または8,000歩以上歩いた人にはインセンティブとして商品と交換できるポイントを付与する。参加者には無料で活動量計を配って参加者を募り、また日々歩いた者にはポイントを付与してウォーキング継続の推進力とする。歩数はICTを活用してWebに自動的に取り込むことで、手間をかけさせず、ルール違反も防止する。											

## 事業目標

## アウトプット指標

参加率（【実績値】 - 【目標値】平成28年度：30.0%）できるだけ多くの人に参加してもらい、生活習慣改善の行動変容の機会にしてもらいたいため、まず第一に参加者の確保が重要。目標としては、30%を目指す。今年度の結果を分析した上で、健診の調査票で運動習慣のなかった人を参加させるよう改善していく。

## アウトカム指標

治療放置群の割合（【実績値】14.3%【目標値】平成28年度：10.0%）治療放置群の割合の低減。指標は、個別事業No.1のアウトカム指標と同じ。

10	事業名	人間ドック										
健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。											
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】病気の早期発見及び予防 【概要】費用の一部を補助（35歳以上が対象）上限：被保険者25,000円、被扶養配偶者20,000円									
事業分類	3-オ											
新規・既存区分	既存	対象者	資格	被保険者・被扶養者	対象事業所	全て	性別	男女	年齢	35～74	対象者分類	全員
実施主体	1. 健保組合											
実施計画 (平成28年度)	広報活動の効果測定をした上で継続実施											
事業目標												



**アウトプット指標**

受診率（【実績値】 3.0%【目標値】平成28年度：-%）人間ドックは高額であり、また費用に対する疾病予防効果も不明瞭であるため、受診率の目標値を設定するのは難しい。

**アウトカム指標**

最終的な目的は疾病予防であるが、その評価は難しい。  
(アウトカムは設定されていません)

11 事業名		PET/CT（被保険者）	
健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。		
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】 病気の早期発見と予防 【概要】 費用の一部補助（35歳以上の被保険者が対象） 上限：40,000円
事業分類	3-オ		
新規・既存区分	既存	対象者	<b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 35～74 <b>対象者分類</b> 全員
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成28年度)	継続		

**事業目標**

**アウトプット指標**

受診率（【実績値】 0.3%【目標値】平成28年度：-%）PET/CTは高額であり、また費用に対する疾病予防効果も不明瞭であるため、受診率の目標値を設定するのは難しい。

**アウトカム指標**

最終的な目的は疾病予防であるが、その評価は難しい。  
(アウトカムは設定されていません)

12 事業名		インフルエンザ予防接種	
健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。		
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】 インフルエンザの予防 【概要】 インフルエンザ予防接種を受けた被保険者に対し、上限2,000円まで補助金を支給。
事業分類	-		
新規・既存区分	既存	対象者	<b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～74 <b>対象者分類</b> 全員
実施主体	1. 健保組合		

実施計画 (平成28年度)	効果検証の効果を踏まえて実施
事業目標	
<b>アウトプット指標</b>	
接種率（【実績値】68.0%【目標値】平成28年度：70.0%）予防接種時のリスクに対して、疾病予防効果も不明瞭であるため、受診率の目標値を設定するのは難しいが、目安として予防接種の接種率70%以上を目標にする。	
<b>アウトカム指標</b> インフルエンザ罹患者の減少、インフルエンザ拡大の防止を図るのが目的であるが、予防手段として予防接種だけでは不十分なため評価は難しい。 (アウトカムは設定されていません)	

13	事業名	<b>救急医薬品の送付</b>	
健康課題との関連	該当なし（これまでの経緯等で実施する事業）		
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】 病気、ケガの応急処置、健康意識の向上、健康保険組合に対する認知 【概要】 健康保険の資格取得者に医薬品の入った救急箱を無償で提供
事業分類	8-ア	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 全員
新規・既存区分	既存		
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成28年度)	継続実施		
事業目標			
<b>アウトプット指標</b> 送付率（【実績値】100%【目標値】平成28年度：100%）新たに健康保険の資格取得者になった者に漏れなく医薬品の入った救急箱を無償で提供する。			
<b>アウトカム指標</b> 目的は健康意識の向上と健保の認知であるが、本事業による単独評価は難しい。 (アウトカムは設定されていません)			

14	事業名	<b>体育奨励</b>	
健康課題との関連	該当なし（これまでの経緯等で実施する事業）		
予算科目	体育奨励	事業の目的 および概要	【目的】 従業員の体力づくり 【概要】 会社で行われる運動会等のスポーツイベントに対する費用補助（年1回/一人当たり2,000円）
事業分類	8-イ	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 全員
新規・既存区分	既存		
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成28年度)	継続実施		

## 事業目標

## アウトプット指標

参加者の割合（【実績値】4.6%【目標値】平成28年度：5.0%）会社でのスポーツイベントへの被保険者参加者を毎年10%以上確保し、心身のリフレッシュを図ってもらう。毎年5.0%以上維持。

## アウトカム指標

年に1回程度のイベント参加で運動習慣等の定着にはなりにくい。むしろ、他の事業で評価する。  
(アウトカムは設定されていません)

15	事業名	保養所利用補助		
健康課題との関連	該当なし（これまでの経緯等で実施する事業）			
予算科目	直営保養所	事業の目的 および概要	【目的】加入者の心身のリフレッシュ 【概要】日本国内の保養所を利用した場合、年度内1回に限り費用を補助。	
事業分類	8-イ			
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 6～74 対象者分類 全員	
実施主体	1. 健保組合			
実施計画 (平成28年度)	継続実施			

## 事業目標

## アウトプット指標

利用者の割合（【実績値】9.5%【目標値】平成28年度：10.0%）全加入者に対する利用者の割合を毎年一定数確保し、心身のリフレッシュを図ってもらう。毎年10.0%以上維持。

## アウトカム指標

目的は、加入者の心身のリフレッシュであるが、本事業による単独評価は難しい。  
(アウトカムは設定されていません)

16	事業名	電話健康相談		
健康課題との関連	該当なし（これまでの経緯等で実施する事業）			
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】こころと体の健康維持 【概要】健康・介護・育児など心身に関わる悩みを電話やメール等で相談受付	
事業分類	6			
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 全員	
実施主体	1. 健保組合			
実施計画 (平成28年度)	利用率を見ながら継続実施			

## 事業目標

#### アウトプット指標

健保HP・健保だより広報（【実績値】2件 【目標値】平成28年度：2件）電話健康相談を有効に活用してもらうため、健保HP・健保だより等で定期的に応報する。健保HPへは常時掲載、健保だよりでは最低年1回広報。

#### アウトカム指標

最終的な目的は疾病の防止にであるが、電話相談の直接的な目的は健康上の問題に対して適切な助言を受けてもらうことにあり、その効果について他の事業との区別が難しい。  
(アウトカムは設定されていません)

## STEP 4 - 1 事業報告

### 事業の一覧

#### 職場環境の整備

- 1 健康管理事業推進合同委員会
- 2 保健事業推進のための各事業所との個別会議

#### 加入者への意識づけ

- 1 機関誌発行
- 2 健康保険パンフレットの配布
- 3 ホームページでの情報発信

#### 個別の事業

- 1 特定健診（被保険者）
- 2 特定健診（被扶養者）
- 3 生活習慣病健診（35歳以上の被保険者）
- 4 特定保健指導
- 5 ジェネリック利用促進の通知
- 6 医療費通知
- 7 受診勧奨通知（中・高リスク）
- 8 情報提供用紙（ポピュレーション・アプローチ）
- 9 ウォーキングイベント（ポピュレーション・アプローチ）
- 10 人間ドック
- 11 PET/CT（被保険者）
- 12 インフルエンザ予防接種
- 13 救急医薬品の送付
- 14 体育奨励
- 15 保養所利用補助
- 16 電話健康相談

## 【保健事業の基盤】職場環境の整備

1	事業名	健康管理事業推進合同委員会		
健康課題との関連	<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p> <hr/> <p>生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。</p>			
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	健診結果、レセプト等に基づき各事業所の健康状態を分析した結果について健康保険組合と事業所とが共通認識を持ち、両者が協力して改善のための施策を検討し、保健事業を推進しやすい環境基盤を構築する。	
事業分類	1-ア	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 全員	
新規・既存区分	既存			
実施主体	3. 健保組合と事業主との共同事業			
実施計画 (平成28年度)	7月に開催する。この中で各事業所における保険事業推進の前年度評価、次年度計画を報告してもらい、全事業所間での意見交換を図る。			
振り返り	実施状況・時期	2017年7月に開催。全事業所の委員が集まり、保健事業推進に関する前年度評価、次年度計画を報告し、意見交換を図った。		
	成功・推進要因	会議に先立ち、評価、計画の必須事項を決め、統一様式での提出を要請した。		
	課題及び阻害要因	特になし。		
予算額	0千円	決算額	0千円	評価 5. 100%
事業目標				
アウトプット指標	会議開催（【現行値】1回【計画値/実績値】平成28年度：1回/1回 【達成度】100%）本会議を年1回以上開催。[-]			
アウトカム指標	会議の成果については、各保険事業の成果で確認する。 (アウトカムは設定されていません)			

2	事業名	保健事業推進のための各事業所との個別会議		
健康課題との関連	<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p> <hr/> <p>生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。</p>			
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	健診結果、レセプト等に基づき各事業所の健康状態を分析した結果について健康保険組合と事業所とが共通認識を持ち、両者が協力して改善のための施策を検討し、保健事業を推進しやすい環境基盤を構築する。特に、事業所の個別性に応じた議論の場とする。	
事業分類	1-ア			

新規・既存区分	既存	対象者	資格	被保険者・被扶養者	対象事業所	一部の事業所	性別	男女	年齢	0～74
実施主体	3. 健保組合と事業主との共同事業		対象者分類	全員						
実施計画 (平成28年度)	規模の大きい主たる4事業所と個別会議を開催し、保健事業を推進する基盤を構築する。									
振り返り	<b>実施状況・時期</b>									
	2017年7月に4事業所と会議を開催。特に、特定保健指導の重要性について議論した。4事業所のうち被保険者全体の50%を占める2事業所については、頻繁に会議を開催した。									
	<b>成功・推進要因</b> 昨年度採用した健康保険組合専任の保健師によるマンパワー増強によるところが大きい。									
<b>課題及び阻害要因</b> 特になし。										
予算額	0千円	決算額	0千円	評価	5. 100%					
事業目標										
<b>アウトプット指標</b>										
会議開催（【現行値】 - 【計画値/実績値】平成28年度：1回/1回 【達成度】100%）主たる4事業所との個別会議を年1回以上開催する。[遠方の2事業所とは年1回、被保険者全体の50%を占める2事業所とはそれぞれ複数回開催。]										
<b>アウトカム指標</b> 個別会議の成果については、各保険事業の成果で確認する。 (アウトカムは設定されていません)										

## 【保健事業の基盤】加入者への意識づけ

1	事業名	機関誌発行		
健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。			
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】情報発信、健康意識の向上 【概要】機関誌の発行（内容：健保の運営、収支、保健事業の案内、健康情報の提供等）	
事業分類	2-イ	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 全員	
新規・既存区分	既存			
実施主体	1. 健保組合			
実施計画 (平成28年度)	継続			
振り返り	実施状況・時期	機関誌発行 年3回 全社員に会社経由で発行		
	成功・推進要因	タイムリーな情報提供により健保が実施する保健事業の周知や医療費適正化に役立っている。		
	課題及び阻害要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅へ持ち帰らない社員があり、被扶養者の元へ渡らない。</li> <li>・広報誌が加入者にどのように受け止められているのかわからない。アンケートを実施しても回答が少ない。</li> <li>・有用性を評価する指標が設定しづらい。</li> </ul>		
予算額	2,520 千円	決算額	2,153 千円	評価 3. 60%以上
事業目標				
アウトプット指標	健保日より発行件数（【現行値】4回【計画値/実績値】平成28年度：3回/3回 【達成度】100%）毎年最低3回発行。[-]			
アウトカム指標	最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区分けが難しい。 (アウトカムは設定されていません)			

2	事業名	健康保険パンフレットの配布		
健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。			
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】健康保険の理解促進 【概要】健康保険の資格を取得した被保険者に、健康保険制度や給付内容を記載した冊子を配布。	
事業分類	2-イ	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 全員	
新規・既存区分	既存			



実施主体	1. 健保組合				
実施計画 (平成28年度)	継続実施				
振り返り	<b>実施状況・時期</b>	新入社員への発行を4月に行い、その他は随時実施。			
	<b>成功・推進要因</b>	パンフレットの内容を最近の健保状況に合わせて見直した。			
	<b>課題及び阻害要因</b>	-			
予算額	- 千円	決算額	12 千円	評価	5 . 100%

事業目標	
<b>アウトプット指標</b>	配布率（【現行値】100%【計画値/実績値】平成28年度：100%/100% 【達成度】100%）保険証発行と同時に、パンフレットを確実に配布する。[健保HPは誰もが閲覧しているとは限らないので、パンフレットは紙媒体で確実に送付することを継続する。]
<b>アウトカム指標</b>	最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区分けが難しい。 (アウトカムは設定されていません)

3	事業名	ホームページでの情報発信		
健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。			
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】情報発信、健康意識の醸成 【概要】医療保険制度、保健事業への取組を幅広く提供する。	
事業分類	2-ア	対象者	<b>資格</b> 被保険者・被扶養者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 0～74 <b>対象者分類</b> 全員	
新規・既存区分	既存			
実施主体	1. 健保組合			
実施計画 (平成28年度)	健保HPだけで情報発信するには現状の機能が不足している。H28年度より、新たに健康Web/PepUpを開設し、Webにより情報発信とする。対象は被保険者全員とする。提供情報としては、健診結果（経年）、健康リスク、改善対策、健康年齢（健診結果を分かりやすく年齢で表したオリジナル指標）、健康に関する啓蒙記事、健保からのお知らせ等。			
振り返り	<b>実施状況・時期</b>	健保HPはインターネットにて継続公開中。これに加えて、H28年7月より新たに健康Web/PepUp（ペップアップ）を開設した。		
	<b>成功・推進要因</b>	健保HPだけでアクセス数を増加させるのは非常に難しいため、新たにPepUpを開設した。ここでは、各自の健康診断結果やウォーキング・ラリーの歩数、また健康に関するいろいろな記事を掲載した。		
	<b>課題及び阻害要因</b>	ホームページの知名度が低い。トータルアクセス数は月平均1,500回程度。（加入者全体の約4%）		

予算額	878千円	決算額	677千円	評価	5. 100%
-----	-------	-----	-------	----	---------

## 事業目標

## アウトプット指標

健康Webへのアクセス数（【現行値】1,770回【計画値/実績値】平成28年度：10,000回/100,698回 【達成度】100%）従来の健保HPだけでは、アクセス数が月平均1,500回程度。毎月の健康Webへのトータルアクセス回数を平均10,000回/月（加入者人数相当）を目指す。当健保オリジナルの健康Webへアクセスしてもらうことが、被保険者のヘルスリテラシーを向上につながると考え、指標としては健康Webへの毎月のアクセス数（全アクセス数）とし、目標は月平均10,000回（全加入者数相当）とする。[第一段階として、被保険者にWebに登録してもらう必要があるが、H28年度で約60%だった。また、アクセス数は一過性では意味がなく、継続的に一定回数を確保できることが重要。アクセス数は月平均10万回を達成した。（全加入者数の10倍）]

## アウトカム指標

最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区分けが難しい。  
(アウトカムは設定されていません)

## 【個別の事業】

1 事業名		特定健診（被保険者）			
健康課題との関連		<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖系系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p> <hr/> <p>生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。</p>			
予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	【目的】生活習慣病の早期発見と健康維持のため 【概要】事業主が行う定期健診と併せて実施。（事業所が主体で実施）		
事業分類	3-ア	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 40～74 対象者分類 全員		
新規・既存区分	既存(法定)				
実施主体	2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用				
実施計画 (平成28年度)	継続				
振り返り	実施状況・時期		対象者 2,579名 受診者 2,396名 受診率 92.9%		
	成功・推進要因		事業所の一般健康診断と同時開催。		
	課題及び阻害要因		現在の状態を維持。		
予算額	1,026 千円	決算額	137 千円	評価	3. 60%以上
事業目標					
<b>アウトプット指標</b> 健診受診案内発信（【現行値】1件【計画値/実績値】平成28年度：2件/2件 【達成度】100%）各事業所に対して健診受診率向上のための要請を行う。文書による通知とWebによる掲示を行う。[Webへの掲示はH28年度より開始。]					
<b>アウトカム指標</b> 健診受診率（【現行値】91.8%【計画値/実績値】平成28年度：90.0%/92.9% 【達成度】100%）健診受診率90%以上を今度も維持。[受診率の計算は、厚生労働省への報告基準に準拠し、年度中に組合に加入した者、及び脱退した者は受診した者に含まれないため、原理上100%には到達しないので、目標値は90%以上とした。]					
2 事業名		特定健診（被扶養者）			

健康課題との関連	<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p> <hr/> <p>生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。</p>											
予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	【目的】生活習慣病の予防と医療費適正化のため 【概要】対象者に受診券を送付し、各自で健診機関に予約して受診。									
事業分類	3-ア	対象者	資格	被扶養者	対象事業所	全て	性別	男女	年齢	40～74	対象者分類	全員
新規・既存区分	既存(法定)		実施主体	1. 健保組合								
実施計画 (平成28年度)	-											
振り返り	<p><b>実施状況・時期</b> 対象者 1,263名 受診者 531名 受診率 42.0%</p> <p><b>成功・推進要因</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受診券送付後、一定期間受診のなかった方に対して受診勧奨のハガキを送付。</li> <li>・パート先等で健診を受診した場合、健診結果を送ってくれた人に対して粗品を贈呈。</li> <li>・事業主にも広報資料を配布して協力の呼びかけ。</li> </ul> <p><b>課題及び阻害要因</b> 24年度は47.2%まで上昇した受診率が低下。低下の原因は現段階では特定できていない。特定健診受診の必要性を地道に訴えていくことが必要。これには、インセンティブの活用を検討する。</p>											
予算額	10,540 千円	決算額	4,418 千円	評価	4. 80%以上							
事業目標												
<b>アウトプット指標</b>												
健診受診案内（【現行値】100%【計画値/実績値】平成28年度：100%/100% 【達成度】100%）全被扶養者に対して健康診断案内を直接郵送。[開封してもらうために、封筒の色をピンクにし、健康保険組合名を大きく表示した。]												
受診勧奨（【現行値】0%【計画値/実績値】平成28年度：100%/100% 【達成度】100%）年度末2か月前までに、未受診者に対してはがきと電話により受診勧奨を行う。[はがきに目を通してもらうために、デザインを工夫した。]												
<b>アウトカム指標</b> 健診受診率（【現行値】41.1%【計画値/実績値】平成28年度：50.0%/42.0% 【達成度】84.0%）健診受診率50%[-]												
3	事業名	生活習慣病健診（35歳以上の被保険者）										

健康課題との関連	<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p> <hr/> <p>生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。</p>				
予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	【目的】生活習慣病の予防と医療費適正化のため		
事業分類	3-ア		【概要】35歳以上の被保険者に対し、特定健診質問票、HbA1c、尿酸値、便潜血、胃部XP（間接）、眼底検査（医師の指示があった場合）の補助を実施。また、一部項目の再検査費用を健保が負担。		
新規・既存区分	既存	対象者	<b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 35～74 <b>対象者分類</b> 全員		
実施主体	2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用				
実施計画 (平成28年度)	継続実施				
振り返り	<p><b>実施状況・時期</b> 【生活習慣病健診】            対象者 3,268名            受診者 3,172名            受診率 97.1%</p> <p><b>成功・推進要因</b> 一般健康診断と一緒に受診できる。</p> <p><b>課題及び阻害要因</b> 現在の状態を維持。</p>				
予算額	19,430 千円	決算額	1,212 千円	評価	3. 60%以上
事業目標					
<b>アウトプット指標</b>					
<p>健診受診率（【現行値】89.8%【計画値/実績値】平成28年度：90.0%/97.1% 【達成度】100%）35～74歳被保険者の健診受診率90%以上を今度も維持。[受診率の計算は、厚生労働省への報告基準に準拠し、年度中に組合に加入した者、及び脱退した者は受診した者に含まれないため、原理上100%には到達しないので、目標値を90%とした。]</p>					
<b>アウトカム指標</b>					
<p>治療放置群の割合（【現行値】14.3%【計画値/実績値】平成28年度：10.0%/12.7% 【達成度】78.7%）40～74歳被保険者の生活習慣病の早期発見、治療放置群割合の低減。35～39歳の被保険者は健康体の者が多いため、評価としては40～74歳（個別事業No.1のアウトカム指標と同じ）で行う。[-]</p>					
4 事業名	特定保健指導				

健康課題との関連	<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p> <hr/> <p>生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。</p>				
予算科目	特定保健指導事業	事業の目的 および概要	【目的】 疾病予防及び健康改善のため		
事業分類	4-ア		【概要】 対象者を抽出後、事業所と連携を取りながら集団で保健指導を実施。		
新規・既存区分	既存(法定)	対象者	資格	被保険者	対象事業所
実施主体	1. 健保組合		全て	性別	男女
実施計画 (平成28年度)	効果検証の上で継続実施				
振り返り	<p><b>実施状況・時期</b></p> <p>【動機付け支援】 対象者 235名 実施者数 23名 実施率 9.8%</p> <p>【積極的支援】 対象者数 380名 実施者数 25名 実施率 6.6%</p> <p>【全体】 対象者数 615名 実施者数 48名 実施率 7.8%</p> <p><b>成功・推進要因</b> 28年度も対象事業所を絞って実施したが、各事業所の推進担当者を通じて対象者への働きかけを強化した。</p> <p><b>課題及び阻害要因</b></p> <p>26年度は特定保健指導を実施していない。 27年度は対象の事業所を絞って実施する。 28年度は限られたマンパワーで対応可能な人数を絞り込んで行った。すべての事業所に対応するにはマンパワー不足。解決策としては、健保専属の保健師を1名配属し、今後の実施率向上を図る。</p>				
予算額	3,380 千円	決算額	863 千円	評価	1. 39%以下
事業目標					

**アウトプット指標**

特定保健指導実施率（【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成28年度：5.0%/7.8% 【達成度】 100%）特定保健指導実施率を5.0%以上にする。[H29年度の目標は50%以上とする。]

**アウトカム指標**

治療放置群の割合（【現行値】 14.3%【計画値/実績値】 平成28年度：10.0%/12.7% 【達成度】 78.7%）生活習慣病の早期発見。治療放置群の割合の低減。指標は、個別事業No.1のアウトカム指標と同じ。[-]

5 事業名	ジェネリック利用促進の通知		
健康課題との関連	年代別のジェネリック医薬品利用率（数量ベース）では、20代以下の被扶養者の利用率が低い。		
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】ジェネリック医薬品の利用促進 【概要】薬の削減効果が一定額以上見込まれる対象者に、差額通知を送付。
事業分類	8-ウ	対象者	<b>資格</b> 被保険者・被扶養者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 0～74 <b>対象者分類</b> 基準該当者
新規・既存区分	既存		
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成28年度)	効果額等を踏まえ、通知送付基準及び送付回数を検討し、継続実施。		
振り返り	<b>実施状況・時期</b>	H28年12月ジェネリック通知送付 通知対象者人数 1,086名 （H28年2月～4月の薬品購入者で差額効果が300円以上の者） ①使用者／服薬者 H29年1月：220人/634人（使用率35%） 2月：223人/696人（使用率32%） 3月：247人/712人（使用率35%） 総合評価：690人/2042人（使用率33.8%） ②ジェネリック使用割合 ・年度全期間 69.2% ・3月度単月 71.3% ③通知者の削減額（1月～3月） 1,538千円	
	<b>成功・推進要因</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者の自宅宛に直接送付。</li> <li>・通知文書に「ジェネリックお願いシール」を同封し、診察券や保険証に貼ってもらうよう促した。</li> <li>・保険証発行の都度、お願いシールを同封。</li> <li>・通知対象者数を3倍に増やした。</li> </ul>	
	<b>課題及び阻害要因</b>	若年層のジェネリック使用率が低い。 25年度までは18歳以上を対象に利用促進通知を送付していたが、26年度からは18歳未満も対象とした。 他のセールス便と一緒に処分されないための、通知書を開封してもらう工夫が必要。	
予算額	800千円	決算額	293千円
		評価	4. 80%以上
事業目標			



**アウトプット指標**

ジェネリック医薬品使用者率（【現行値】34.4%【計画値/実績値】平成28年度：40.0%/33.8% 【達成度】84.5%）差額通知の配布者のうちジェネリック医薬品使用者の割合（ジェネリック医薬品使用者率）40%以上。評価期間は、通知発行翌月から同年度3月までの全期間とする。  
[H28年度の評価対象通知発行時期としては、風邪が流行する前である12月とした。]

**アウトカム指標**

ジェネリック医薬品使用割合（【現行値】-%【計画値/実績値】平成28年度：80.0%/71.3% 【達成度】89.1%）年度末（3月度）におけるジェネリック医薬品使用割合80%以上[H28年3月度のジェネリック医薬品使用率は、H26年3月度に比べ、3.3%増加。]

6	事業名	<b>医療費通知</b>			
健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。				
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】健康意識の向上と不正請求の防止。 【概要】3ヶ月毎に世帯ごとの医療費を事業主を経由して送付。		
事業分類	2-イ	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 全員		
新規・既存区分	既存				
実施主体	1. 健保組合				
実施計画 (平成28年度)	継続				
振り返り	<b>実施状況・時期</b>		年間概算発行数 被保険者向け3,500通×年4回発行＝14,000通		
	<b>成功・推進要因</b>		医療費通知を見た被保険者からの連絡で、医療機関からの不正請求が発覚する事例があった。		
	<b>課題及び阻害要因</b>		事業所を経由して配布しているため、加入者の多い事業所は配布に時間がかかる。その結果、加入者にとっては数か月前の医療費情報が届くことになり、タイムラグが大きくなってしまう。		
予算額	350千円	決算額	362千円	評価	5. 100%
<b>事業目標</b>					
<b>アウトプット指標</b>	医療費通知の配布（【現行値】4回【計画値/実績値】平成28年度：4回/4回 【達成度】100%）医療費通知の配布（4回/年） [医療費通知は、従来の紙媒体に加えて、2017年11月よりWebでいつでも見れるようにした。]				
<b>アウトカム指標</b>	最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区別が難しい。 (アウトカムは設定されていません)				

7 事業名 **受診勧奨通知（中・高リスク）**



健康課題との関連	生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。		
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】生活習慣病の重症化予防と早期治療
事業分類	4-イ		【概要】検査項目が基準に該当した未治療者に対し、健保と事業所が連名で受診勧奨の文書を送付（事業所経由または直接自宅に送付）
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者 対象事業所 一部の事業所 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 基準該当者
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成28年度)	継続		
振り返り	実施状況・時期	対象者 20名 受診者 15名 受診率 78.9%	
	成功・推進要因	健保と事業所の連名で送付したため、強制力が強く働いた。 同封した受診状況アンケートの回答から、現在の受診状況や未受診の理由等の状況を把握できた。	
	課題及び阻害要因	受診をするものの、医者から「問題ない」「経過観察」となったケースが多くあった。来年度からは基準値を見直す必要がある。	
予算額	2,000千円	決算額	13千円
		評価	4. 80%以上

事業目標	
アウトプット指標	
通知者の受診率（【現行値】15.3%【計画値/実績値】平成28年度：20.0%/78.9% 【達成度】100%）健保より受診勧奨通知書を送付している受診勧奨対象者に対して、受診勧奨通知後の受診率（治療率）を20%以上にする。[脂質異常の対象者は、受診しても医者からは経過観察とされることが多く、受診しても改善効果は疑問がある。むしろ、そういう対象者には保健指導を行った方がよいと考えられるため、H29年度からは脂質異常の対象者は特定保健指導の対象に位置づける。]	
アウトカム指標	
治療放置群の割合（【現行値】14.3%【計画値/実績値】平成28年度：10.0%/12.7% 【達成度】78.7%）生活習慣病の治療放置による重症化を防ぐ。治療放置群の割合を低減する。指標は、個別事業No.1のアウトカム指標と同じ。[-]	

8	事業名	情報提供用紙（ポピュレーション・アプローチ）	
健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。		
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】健康意識をの向上
事業分類	2-ア,4-イ		【概要】健診の検査項目が一定基準（低リスク）の該当者に対し、情報提供用紙を送付。H28年度より、紙媒体を止めて、ICTを活用しWebによる情報発信に切り替えた。
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者 対象事業所 一部の事業所 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 基準該当者
実施主体	1. 健保組合		

実施計画 (平成28年度)	H28年度より、紙媒体を止めて、ICTを活用しWebにより情報発信とする。対象は被保険者全員とする。提供情報としては、健診結果（経年）、健康リスク、改善対策、健康年齢（健診結果を分かりやすく年齢で表したオリジナル指標）、健康に関する啓蒙記事、健保からのお知らせ等。				
振り返り	<b>実施状況・時期</b>	H28年7月より健康Webの運営を開始し、Web上で各自の健康状態、及び必要に応じた改善対策を確認できるようにした。予算については、保健事業の基盤の項目中の「HPでの情報提供」の予算内で実施。			
	<b>成功・推進要因</b>	健診結果を経年でグラフ化。健康リスク度をポイント化して掲載するなど、わかりやすい内容にして送付。			
	<b>課題及び阻害要因</b>	数値としての効果（結果）が見えにくいので、評価が難しい。			
予算額	878千円	決算額	437千円	評価	4. 80%以上

事業目標	
<b>アウトプット指標</b>	
<p>情報提供の実施（【現行値】 - 【計画値/実績値】平成28年度：1件/1件 【達成度】100%）健康に対する意識向上のため、過去の健診結果、健康リスクに関する情報を提供する機会を設ける。H28年度では、健保HPとは別に、ICTを活用した健康Webを開設し、その中で健診結果（経年）、健康リスク、改善対策、健康年齢（健診結果を分かりやすく年齢で表したオリジナル指標）、健康に関する啓蒙記事、健保からのお知らせ等の健康情報を掲載し、全被保険者がいつでも自分だけの情報を見れるようにする。[-]</p> <p>健康Webへのアクセス数（【現行値】 - 【計画値/実績値】平成28年度：10,000回/100,698回 【達成度】100%）当健保オリジナルの健康Webへアクセスしてもらうことが、被保険者のヘルスリテラシーを向上につながると考え、指標としては健康Webへの毎月のアクセス数（全アクセス数）とし、目標は月平均10,000回（全加入者数相当）とする。従来の健保HPだけでは、アクセス数が月平均1,500回程度。[第一段階として、被保険者にWebに登録してもらう必要があるが、H28年度で約60%だった。また、アクセス数は一過性では意味がなく、継続的に一定回数を確保できることが重要。アクセス数は月平均10万回を達成した。（全加入者数の10倍）]</p>	
<b>アウトカム指標</b>	最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区分けが難しい。（アウトカムは設定されていません）

9 事業名	<b>ウォーキングイベント（ポピュレーション・アプローチ）</b>				
健康課題との関連	生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。				
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	体育奨励事業では運動習慣の定着が難しいため、H28年度より新たな事業を開始する。被保険者を対象にウォーキングイベントを開催する。これにより、被保険者の運動習慣を身に着けるきっかけとしてもらうことを目的とする。最終的には、健康リスクが減少することを期待する。		
事業分類	8-ア,8-イ				
新規・既存区分	新規	対象者	<b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～65 <b>対象者分類</b> 全員		
実施主体	3. 健保組合と事業主との共同事業				
実施計画 (平成28年度)	H28年9月から開始。ウォーキング・ラリーという名称で、参加者に日々歩いてもらい、6,000歩、または8,000歩以上歩いた人にはインセンティブとして商品と交換できるポイントを付与する。参加者には無料で活動量計を配って参加者を募り、また日々歩いた者にはポイントを付与してウォーキング継続の推進力とする。歩数はICTを活用してWebに自動的に取り込むことで、手間をかけさせず、ルール違反も防止する。				

振り返り	<b>実施状況・時期</b>				
	H28年9月から開始。参加者は744人（被保険者の17.5%）と順調な参加率であった。インセンティブとしての歩数に応じたポイント獲得率も、月平均60%以上確保され、半数以上の人が継続的にウォーキングしていることが確認された。				
	<b>成功・推進要因</b>				
	インセンティブとして、無料で活動量計を支給し、また日々歩いた人にはポイントを付与したこと、Webを活用して記録に手間をかけさせずにできたことが成功要因と思われる。				
	<b>課題及び阻害要因</b> 今後さらに参加者を増やしていく。				
予算額	10,563 千円	決算額	1,782 千円	評価	5 . 100%

<b>事業目標</b>	
<b>アウトプット指標</b>	
参加率（【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成28年度：30.0%/17.5% 【達成度】 58.3%）できるだけ多くの人に参加してもらい、生活習慣改善の行動変容の機会にしてもらいたいため、まず第一に参加者の確保が重要。目標としては、30%を目指す。今年度の結果を分析した上で、健診の調査票で運動習慣のなかった人を参加させるよう改善していく。[今後、インセンティブの方法、イベントのルールに飽きさせない工夫が必要。また、不参加者を引き込むための工夫も必要。]	
<b>アウトカム指標</b>	
治療放置群の割合（【現行値】 14.3%【計画値/実績値】 平成28年度：10.0%/12.7% 【達成度】 78.7%）治療放置群の割合の低減。指標は、個別事業No.1のアウトカム指標と同じ。[-]	

10	事業名	<b>人間ドック</b>			
健康課題との関連		一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。			
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】 病気の早期発見及び予防 【概要】 費用の一部を補助（35歳以上が対象）上限：被保険者25,000円、被扶養配偶者20,000円		
事業分類	3-オ	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 35～74 対象者分類 全員		
新規・既存区分	既存				
実施主体	1. 健保組合				
実施計画 (平成28年度)	広報活動の効果測定をした上で継続実施				
振り返り	<b>実施状況・時期</b>		対象者数 4,876名 受診者数 283名 受診率 5.8%		
	<b>成功・推進要因</b>		-		
	<b>課題及び阻害要因</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>受診率が低く、新規受診者が少ない。</li> <li>費用が高額であり、また費用に対する疾病予防効果も不明瞭である。現状維持で十分。</li> </ul>		

予算額	21,000 千円	決算額	6,795 千円	評価	5 . 100%
-----	-----------	-----	----------	----	----------

## 事業目標

## アウトプット指標

受診率（【現行値】3.0%【計画値/実績値】平成28年度：-%/5.8% 【達成度】-%）人間ドックは高額であり、また費用に対する疾病予防効果も不明瞭であるため、受診率の目標値を設定するのは難しい。[希望者に補助は行うが、受診の促進は行わない。]

## アウトカム指標

最終的な目的は疾病予防であるが、その評価は難しい。  
(アウトカムは設定されていません)

11 事業名	PET/CT（被保険者）				
健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。				
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】病気の早期発見と予防 【概要】費用の一部補助（35歳以上の被保険者が対象）上限：40,000円		
事業分類	3-才	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 35～74 対象者分類 全員		
新規・既存区分	既存				
実施主体	1. 健保組合				
実施計画 (平成28年度)	継続				
振り返り	実施状況・時期	対象者数 3,221名 受診者数 10名 利用率 0.3%			
	成功・推進要因	-			
	課題及び阻害要因	・受診率が低い。 ・費用が高額であり、また費用に対する疾病予防効果も不明瞭である。現状維持で十分。			
予算額	6,000 千円	決算額	680 千円	評価	5 . 100%

## 事業目標

## アウトプット指標

受診率（【現行値】0.3%【計画値/実績値】平成28年度：-%/0.5% 【達成度】-%）PET/CTは高額であり、また費用に対する疾病予防効果も不明瞭であるため、受診率の目標値を設定するのは難しい。[希望者に補助は行うが、受診の促進は行わない。]

## アウトカム指標

最終的な目的は疾病予防であるが、その評価は難しい。  
(アウトカムは設定されていません)

12	事業名	インフルエンザ予防接種			
健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。				
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】インフルエンザの予防 【概要】インフルエンザ予防接種を受けた被保険者に対し、上限2,000円まで補助金を支給。		
事業分類	-	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 全員		
新規・既存区分	既存				
実施主体	1. 健保組合				
実施計画 (平成28年度)	効果検証の効果を踏まえて実施				
振り返り	<p><b>実施状況・時期</b> 被保険者数 4,221名 接種者 2,931名 利用率 69%</p> <p><b>成功・推進要因</b> 人数の多い事業所では勤務時間内に集団接種を実施しており、利用しやすい状況であった。</p> <p><b>課題及び阻害要因</b> インフルエンザ予防接種による費用対効果ははっきりとわからない。他の予防措置として、罹患時の就業制限徹底、うがいの励行、マスク着用励行等があり、これらは事業所が既に実施している。</p>				
予算額	12,000 千円	決算額	8,611 千円	評価	5. 100%
事業目標					
<b>アウトプット指標</b>					
接種率（【現行値】68.0%【計画値/実績値】平成28年度：70.0%/76.6% 【達成度】100%）予防接種時のリスクに対して、疾病予防効果も不明瞭であるため、受診率の目標値を設定するのは難しいが、目安として予防接種の接種率70%以上を目標にする。[今後も接種率70%維持を目標とする。]					
<b>アウトカム指標</b> インフルエンザ罹患者の減少、インフルエンザ拡大の防止を図るのが目的であるが、予防手段として予防接種だけでは不十分なため評価は難しい。 (アウトカムは設定されていません)					

13	事業名	救急医薬品の送付			
健康課題との関連	該当なし（これまでの経緯等で実施する事業）				
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】病気、ケガの応急処置、健康意識の向上、健康保険組合に対する認知 【概要】健康保険の資格取得者に医薬品の入った救急箱を無償で提供		
事業分類	8-ア	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 全員		
新規・既存区分	既存				
実施主体	1. 健保組合				



実施計画 (平成28年度)	継続実施				
振り返り	<b>実施状況・時期</b>	配布者 185名			
	<b>成功・推進要因</b>	-			
	<b>課題及び阻害要因</b>	-			
予算額	380千円	決算額	835千円	評価	5. 100%
事業目標					
<b>アウトプット指標</b>					
送付率（【現行値】100%【計画値/実績値】平成28年度：100%/100% 【達成度】100%）新たに健康保険の資格取得者になった者に漏れなく医薬品の入った救急箱を無償で提供する。[-]					
<b>アウトカム指標</b> 目的は健康意識の向上と健保の認知であるが、本事業による単独評価は難しい。 (アウトカムは設定されていません)					

14	事業名	<b>体育奨励</b>			
健康課題との関連	該当なし（これまでの経緯等で実施する事業）				
予算科目	体育奨励	事業の目的 および概要	【目的】従業員の体力づくり 【概要】会社で行われる運動会等のスポーツイベントに対する費用補助（年1回/一人当たり2,000円）		
事業分類	8-イ	対象者	<b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～74 <b>対象者分類</b> 全員		
新規・既存区分	既存				
実施主体	1. 健保組合				
実施計画 (平成28年度)	継続実施				
振り返り	<b>実施状況・時期</b>	対象者 4,090名 実施者 239名 利用率 5.8%			
	<b>成功・推進要因</b>	従業員の体力づくりだけでなく、従業員同士の交流にもなっている。			
	<b>課題及び阻害要因</b>	運動会自体の開催が少ないため、例年利用率が低い。			
予算額	3,000千円	決算額	190千円	評価	1. 39%以下
事業目標					

**アウトプット指標**

参加者の割合（【現行値】4.6%【計画値/実績値】平成28年度：5.0%/4.5% 【達成度】90.0%）会社でのスポーツイベントへの被保険者参加者を毎年10%以上確保し、心身のリフレッシュを図ってもらう。毎年5.0%以上維持。[現状のスポーツイベントは、年に1度程度の単発的なものなので、運動習慣の定着の目的にはそぐわない。むしろ、この目的はメンタルのリフレッシュと位置づける。運動習慣の定着は、他の事業に委ねる。]

**アウトカム指標**

年に1回程度のイベント参加で運動習慣等の定着にはなりにくい。むしろ、他の事業で評価する。  
(アウトカムは設定されていません)

15	事業名	<b>保養所利用補助</b>		
健康課題との関連	該当なし（これまでの経緯等で実施する事業）			
予算科目	直営保養所	事業の目的 および概要	【目的】加入者の心身のリフレッシュ 【概要】日本国内の保養所を利用した場合、年度内1回に限り費用を補助。	
事業分類	8-イ	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 6～74 対象者分類 全員	
新規・既存区分	既存			
実施主体	1. 健保組合			
実施計画 (平成28年度)	継続実施			
振り返り	<b>実施状況・時期</b>		H28年度 対象者 9,753名 利用者 1,098名 利用率 11.3%	
	<b>成功・推進要因</b>		全国すべての宿泊施設が対象となる。リピーターが多い。補助金の制度について周知が不足していると考え、H29年1月発行の健保だよりから保険事業一覧表（補助金額も記載）を大きく掲載することにした。これにより、利用率が若干増加した。	
	<b>課題及び阻害要因</b>		補助金が支給されることを知らない人がいるため、周知のために、継続的に健保だよりから保険事業一覧表を掲載する必要がある。	
予算額	4,200 千円	決算額	1,779 千円	評価 5. 100%

## 事業目標

**アウトプット指標**

利用者の割合（【現行値】9.5%【計画値/実績値】平成28年度：10.0%/11.3% 【達成度】100%）全加入者に対する利用者の割合を毎年一定数確保し、心身のリフレッシュを図ってもらう。毎年10.0%以上維持。[加入者全体の1割以上の人に利用してもらえれば十分と考える。]

**アウトカム指標**

目的は、加入者の心身のリフレッシュであるが、本事業による単独評価は難しい。  
(アウトカムは設定されていません)

16	事業名	<b>電話健康相談</b>		
健康課題との関連	該当なし（これまでの経緯等で実施する事業）			

予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】 ころと体の健康維持 【概要】 健康・介護・育児など心身に関わる悩みを電話やメール等で相談受付		
事業分類	6				
新規・既存区分	既存	対象者	資格	被保険者・被扶養者	対象事業所 全て
実施主体	1. 健保組合		性別	男女	年齢 0～74
実施計画 (平成28年度)	利用率を見ながら継続実施				
振り返り	<b>実施状況・時期</b> からだの相談件数 81件 ころの相談件数 45件				
	<b>成功・推進要因</b> 健保だよりやホームページ等で相談窓口の広報をした。				
	<b>課題及び阻害要因</b> 相談件数が多ければよいというわけではないが、まだまだ需要はあると思うので、H28年1月以降の健保だよりには保険事業一覧表を掲載し、他の保険事業と合わせて周知を図る。				
予算額	2,800 千円	決算額	1,123 千円	評価	4. 80%以上

## 事業目標

## アウトプット指標

健保HP・健保だより広報（【現行値】2件【計画値/実績値】平成28年度：2件/2件 【達成度】100%）電話健康相談を有効に活用してもらうため、健保HP・健保だより等で定期的に広報する。健保HPへは常時掲載、健保だよりでは最低年1回広報。[H28年1月以降の健保だよりには保険事業一覧表を掲載し、他の保険事業と合わせて周知を図る。]

## アウトカム指標

最終的な目的は疾病の防止にであるが、電話相談の直接的な目的は健康上の問題に対して適切な助言を受けてもらうことにあり、その効果について他の事業との区別が難しい。  
(アウトカムは設定されていません)